

古來
今世

揚弓射禮蓬矢鈔



揚弓射禮蓬矢抄追考目錄

- 一 揚弓射樣之事 イヤウノ
- 一 堀寸法之圖式 ホウスニハフツシキ 并的無落字
- 一 一度刺板之圖串 ドサレイノクシ
- 一 一度入之事 ドイリノコト
- 一 不數矢同矢 フスヤドウヤ 分算法
- 一 矢數增之事 ヤカスニシノコト
- 一 紋之次第并圖式 モンノシグアイ 并圖式
- 一 一道具之事 ミツグノコト 弓。附。彙。矢。木賊。矢代箭。
- 一 一闇乳母之事 クニキヨチノコト
- 一 一度取算盤之圖 ドトリサンバンノツ
- 一 結改之事 ケツカノコト
- 一 數矢之事 シキヤノコト
- 一 嘉定之事 カヤウノコト 并圖
- 一 乳母之立樣之次第事 チチノタテヤウノシグアイノコト

一乳母チチアル時トキモシ紋トリヤウ之取ツク様ヤウ事コト

一キリ穴アナ之ノ事コト

一源平ゲイヘイ之ノ事コト

一射イ扱アツカヒ之ノ事コト并ナヒ圖ズ

一洛陽射場所付

一江戸射場所付

一洛陽弓師所付

一洛陽矢師所付

一洛陽揚弓ハユ師シ

一江戸弓矢師

已上

揚弓射禮書

雒陽今井中 追考

○揚弓射極乃事

柙ソウ揚ウ弓キウ射セやうウつウらクありソいハにシ習シふニく
て射セふニ化カとシとシひキ取ツりク中ナるニ金カネ貝ガイの射セ
子シ常トウ住ジュ金カネ貝ガイの射セ。近チカ書カキの射セも常トウ住ジュ近チカ書カキ
ならず。序セ毎ヘも不フ同ドウありて終ハシむとシき取ツりク来キ書カキ
見ミるニは是コノ習シ得トクるニ由ユ之ノ能ノりニ由ユひキ取ツりク射セとシ

と此を常住とて海りて去取のゆるめれ。化流と
あり。氣流とて先ら去取のゆるめれ。口傳あり
つゝ道理とせ先て造れり。扱揚らと射るの第一
心持あり。候も散乱の心あり時を中ふるなり。心
を流の氣化煉して化へ心氣とて流らす。一念よ
一矢一矢と大事とせ。一度の内一矢とてありて
弓のゆるみやうきまき飛。百手よかきぬ。時を大きなる。
造れぬ先左の膝と的のむらびりせ。右の膝と羽の

左の足乃をとりいびりてとらひ。弓と矢取流。
おし。心志のかにしてはまみれ下。百手よかきぬ。やう
よはまむし。押子のかた左の大指と附の右れかき
かけ。左へ押おきやうのまじ。左の人差指と附のせし
矢巻とすべし。是を指巻とてふ。流り三の指流れ
おとしす。し。化びりて。右の付人との膝と
みとし。先ら親指と右持鼻の穴へ。鼻の色を
て。親指の頭をあて。是を定規とせ。矢取をけ

膝の上もつたのよ引込めずら一問とあせ打と
て現^{ねら}べし。的^めを袖^{そで}と袖^{そで}とあせ打とあせ打とあせ打と
下^{した}袖^{そで}と袖^{そで}とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
る袖^{そで}と袖^{そで}とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
すして。空^{くわ}成^{なり}取^り袖^{そで}と袖^{そで}とあせ打とあせ打とあせ打と
く。物^{もの}と子^こ氣^きと子^こ氣^きとあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
皆^{みな}中^{ちゆう}らだ。悉^{しつ}あせ打とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
まのらとくも袖^{そで}と袖^{そで}とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と

時。押^{おし}子^こと付^つと張^{はり}合^あせて救^{すく}す時^{とき}とあせ打とあせ打と
とらあせ打とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
よ射^{しや}りつとあせ打とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
れらあり一^{ひと}矢^や一^{ひと}矢^やと大^{だい}切^きり。一^{ひと}乃^の矢^や射^{しや}り
右^{みぎ}大^{だい}腕^{うで}末^{すえ}のどしへくく。一^{ひと}乃^の矢^や射^{しや}りつとあせ打とあせ打と
か。一^{ひと}乃^の矢^や射^{しや}りつとあせ打とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と
一^{ひと}乃^の矢^や射^{しや}りつとあせ打とあせ打とあせ打とあせ打とあせ打と

○ 道具之事

一弓 蘇榜の目乃流まりたる節なり木 削へ
ひふ直よ前丸を付て削る是予流之弓
此の記を子前子記しゆへ。癖おきてのそす
引一寸五分六寸三分のる。人の好むをふ
引く曲弓を張らるをみまうす通し。弓乃
長と申末此若どのあり二尺八寸あり

一附 中比迄を本化。式と金船魚紋と紙
包。金銀鹿の角をかき。又唐蔴繪をひく
笠椀并飾をせり。近代本阿弥何某は道と好こ
且書の上支とあり。洛陽天神の厨子正阿弥
との子弓師と招き。角らと削らせ附を下細く
飛紙金襴緞子に包こ。とを既承れり。此箱は
鶴ますれとあり。左の弓乃内ねあひの押
子あり。ゆりく綾を長よ。おとがき。此矢乃

あつちのゆとりなり也。又中法と云ふは、
矢を射るに似しなり。矢が射るに中あらずれば、
三ヶ月射るにひいし。矢が射るに中あらずれば、
中何年何某れ、
名人も亦くを心持のどく弓矢を製するゆへに、
弓の流を射るに幅八分下の幅七分半、
射の幅ひらりと持し、
と乃若也のられ金物いろく物ずとあまの指巻

此為よあまの。筒金二筋入る又ハ槍板なり、
金物と云ふは、
一弦琵琶乃三四の間の緒を用ゆべし、
いろくは弦也。弦は太く細く、
此をたるは、
糸も露を入るの定たもの、
捜はるに、
押掛るは、

るりて矢成放ちては大方に遊ぶといふものなり
とていふはゆゑにありてある也

一囊 じしとるべ分のらるしな袋しるが
とて代すて継弓とまりぬ。それを袋の長も
短くぬぬとて定まる寸法なり。好むはゆゑに
一矢 是もいふへとも長きを短く。中比五分七
の矢ぬこれ五分九寸二分五分の矢と法をせ射る
人あり。たまきけきとる間敷に此道理あり。弓射

とるもいふ人生よめて落手あり。差手あり。落手の人
是を好むべしとこれとをせ九寸二分五分を用ゆべし

一矢の木 草朴櫻或は檫の木とも用ゆ。木の長
考へず畢竟ハ木の尋常を用ゆべし

一羽 鶴と専用ゆ。白鳥の君不知む上品なり。鶴ハ
則 白鳥く深羽の物ず。好むはゆゑに
是を海むすべし

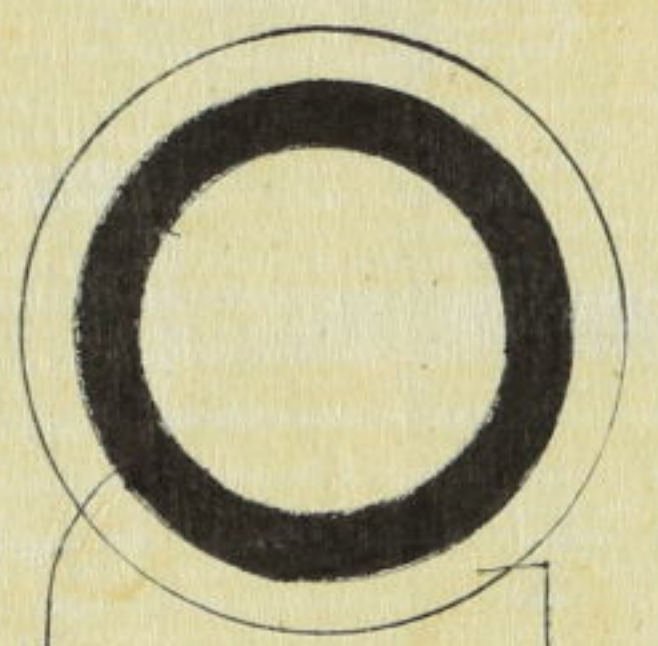
一矢代箭乃て専用ゆ。或は化法あり。蓬矢抄の註解ニ

是を洩せし。予が。聞傳あり。往昔天竺の惡大王。西天
此武王ト諍戰ありし時。帝し後ふ。今の矢代神頭。是こ
是震旦。是傳あり。重光乃明神皇帝。此送臣。退治
乃時。天ニ祈り授。是後へり。本朝。八幡太郎義
家。河倍。負任宗。任追討の時。春日大明神。祈誓
し。海ありて。夢想。得。是ひ。外。け。る。取。傳。へ。く。是。を
弓矢の守り。守。今。爰。是。を。り。ち。ゆ。る。射。此。人。射
席。心。射。前後の。ゆ。る。ひ。あり。其時。矢代。箭

と面く。分。半。て。盲。そ。り。に。前。て。後。も。て。さ。ぐ。り
一矢。づ。座。お。り。て。去。さ。て。我。矢。此。あ。席。看。く
矢。乃。仕。柳。と。人。の。心。心。必。は。流。し。金。一
一木賊。豎。は。付。く。あり。様。は。付。る。あり。右木賊。左木賊
あり。心。の。ま。す。す。べ。し。又。太。き。細。き。も。は。ま。み。古。作。か。ハ
長。短。し。六。分。半。上。巻。せ。九。分。或。八。分。劫。後。あり
落。指。あり。緩。む。縮。む。あり。其。人。乃。は。ま。み。よ。る。べ
は。し。流。し。金。一。口。傳

一的櫻藤木より大紙三寸五分。是れ中比
 より三寸二分五分。またてん造りおそえ。的紙奉
 書の紙より強。白粉より糊もませ。村の紙よりよ
 り。そら大輪と書べし大輪書あり。的の紙より
 二分のちて輪の紙より四分たぐし。或るの肉は
 鬼よりあ字と書るゆもあり
 一 鬼よりあ字より法の秘傳をききこむるゆあり
 めて鬼めはまゝの字のまじりて甲乙とてあ字と書るゆあり
 の字をかくは民衆知人を世帯の鬼よりあ字と書るゆあり

大輪之圖



是間三分
 大輪ノフトサ四分

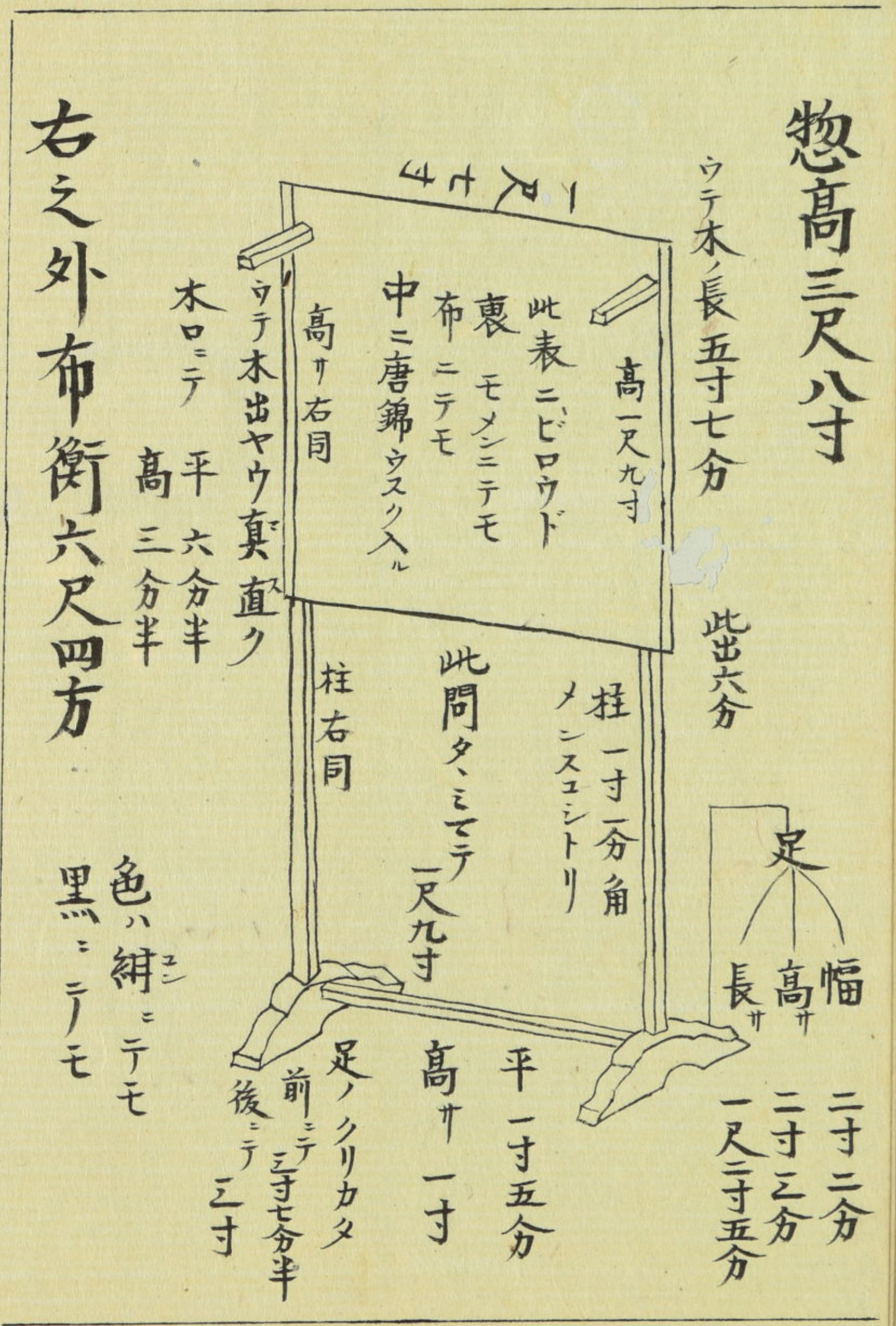
的とては、的の字とて、紙をひけて、紙を
 あらゆる、的の字とて、紙をひけて、紙を
 さらさらとて、紙をひけて、紙を

一 棚 高サ三尺五寸五分。今ハ是より三寸なり。其
 黒皮は綿をひき。皮の長ケ一尺九寸。下一尺九寸合
 て三尺八寸也

往年棚の寸法は、り去御方より御よ。
 左のとて、り去御方より御よ。

惣高三尺八寸

右之外布銜六尺四方



添書

一後陽成院様の御時の棚ハ御時代不知御藏

納まゆ吉元棚を御用を御由

惣高 三尺九寸 幅 二尺六七寸計

太鞆乃肉之サ極と同位之四角相見申候

馬皮之張真申ノ貌を彩色畫之候由

右高ハ無相違御座候其外の寸法ハ之と知

不申候由馬皮之張中ハ棚音との音純

日名乃圖（さうこ）中やうと云の御変と云の御變との
推量（すいりやう）より推し由

一後水尾院様御時右の棚御改被為成高（いんせきま）者
古製のことと云ふ二尺九寸なる幅一尺七寸五合程に
勅意（ちうい）を以て一糸惠觀（ゑいけん）公の金森宗和公へ侍せ
付させられ。右の寸法よして其卯木の申す形の恰好
相すれよと成法中（なりほうちゆう）の御事なる所推しよと云の
御事なる幅御取合申す御事相すれよと云

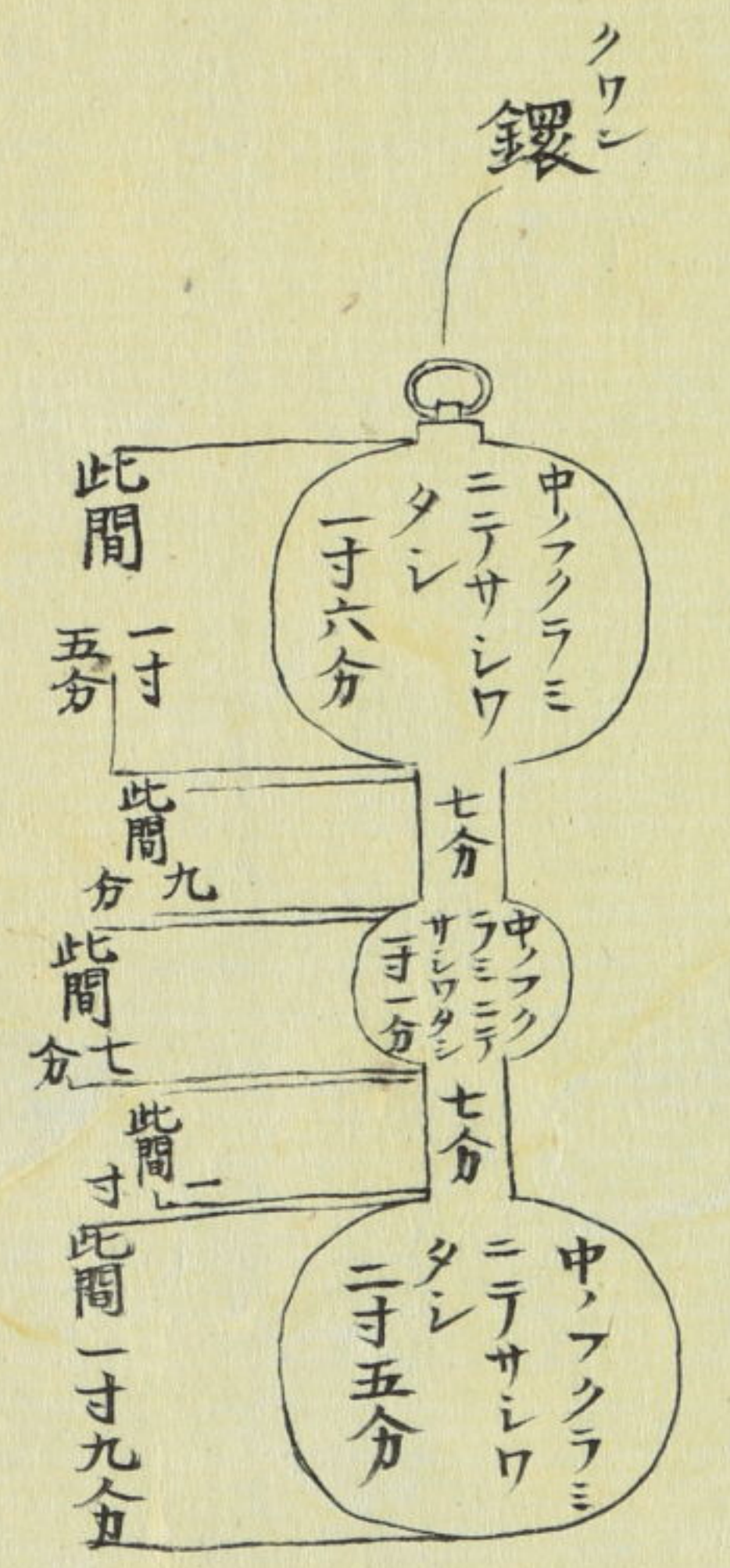
き尺七寸五合のちめぬを介答宗和公に物すと云
ははさるる彼為 上ヶ候由圖を仕りて下ヶ本河孫
兼入（けんま）乃別号（なりべつごう） 棚（たな）七ヶ 御極乃格（ごごくのくわ）より推しよと云
るより足ハサ大さより推しよ是ハ兼入（けんま）乃簡（のりかん）より推しよと云
弱（よわ）らよ輕（かろ）と矢るゆ推しよ中（ちゆう）より推しよと云
ゆ記不申（ゆきふしん）ゆ。當世（たうせい）を強（つよ）らよ重（おも）キ矢る中（ちゆう）より推しよ
ゆ推しよと云。あとの介ゆ記中（ちゆう）に付は圖の寸法よ
被致（ふれい）ゆ。無落ハ金森公御物すれを勅意（ちうい）より推しよ
ゆ推しよ

瓢箪ひょうたんノ兼入改かへ中ちゆうニ色いろノ外ほか比ひ目めノ

後水尾院様乃御時ノ改かへヤル格かどヨリ格かどノ外ほかト云いハ

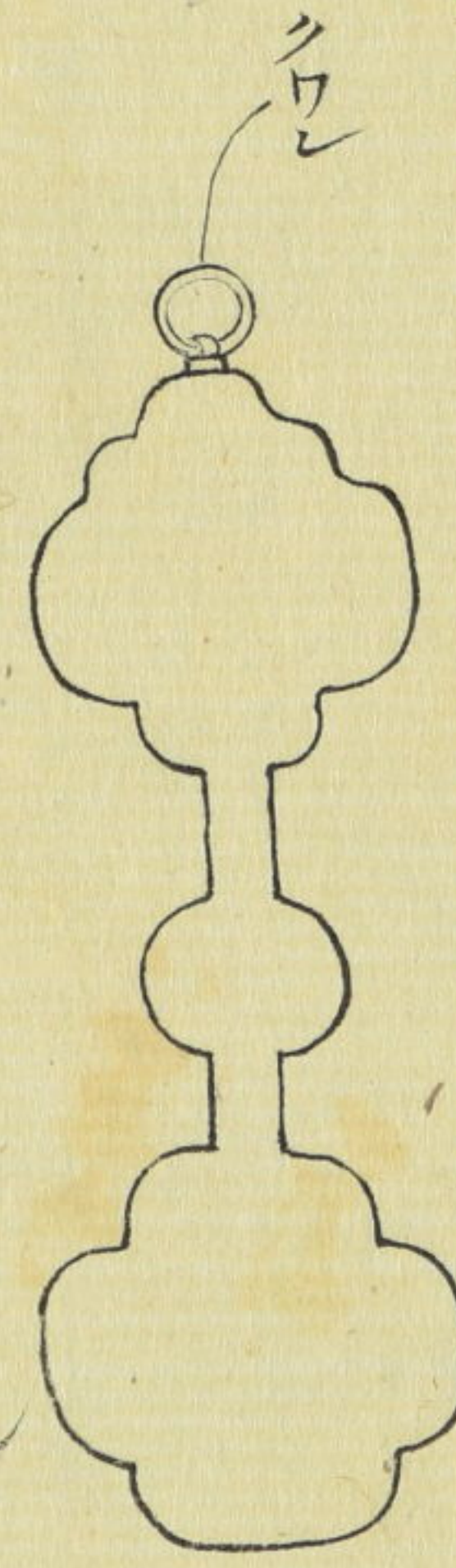
一無ぶ落ら大形瓢箪也其外ほかノ外ほかト云いハ

無な落ら圖 惣高さうたかサ六寸



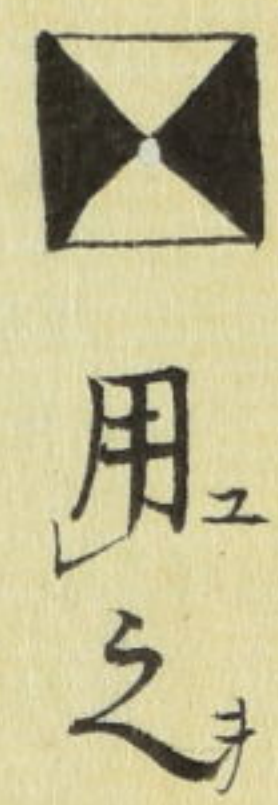
下ノフクラミノ内
鉛なまりヲ二百目入ルナリ

け寸法けすんぽうゆきし前まへののかかのの人ひとををく



右ニ色兼入仕出ますますますま

一字いちじの包か極くいろくいろくとくとくをを當あ世よ都と鄙びああままくく



一いち闌らん文字ぶんじ又またハ 闌らんととししひひふふるる成なり結むす改かへととふふ百ひゃく手て

乃なここ五ご度どノノ十じゅう度ど結むすひひ改かへむむゆゆくく

一乳母ちち 二人前まへなりいしへ六矢や二本にほんを二度にどす

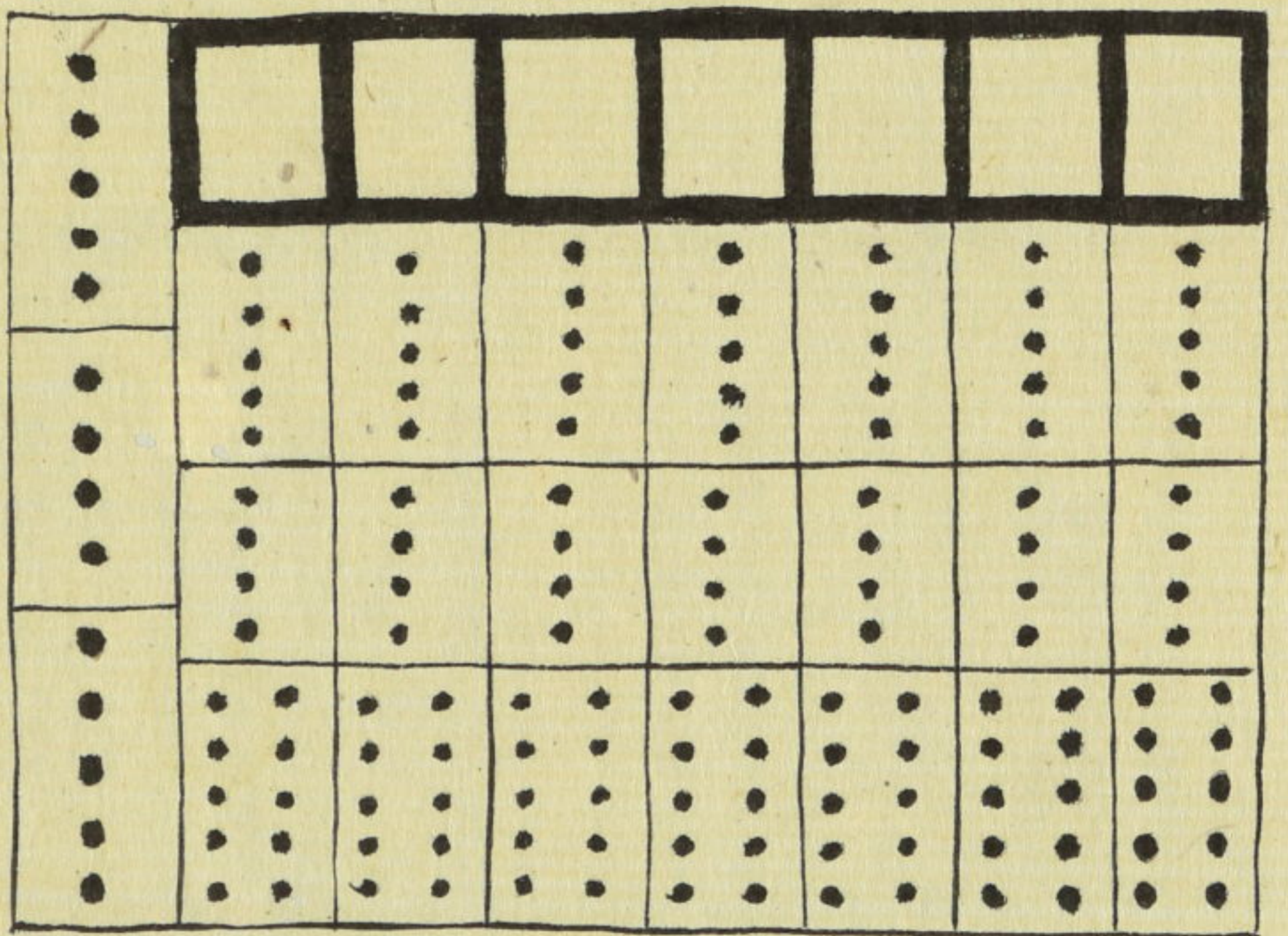
百度射あやをさす。中比ちゆうひ分ぶん四半よんぱんを二度下極げメ

五十度いそどは定さだるく是こゝ四季しきを表あらわせり

一い錐穴こしあな あてたる人ひとは括くわを渡わたス。のの穴あなは入いりて
 抽ひけ射あやをさす。一いつあつらひぬぬ射あや抽ひハ各別かくべつに

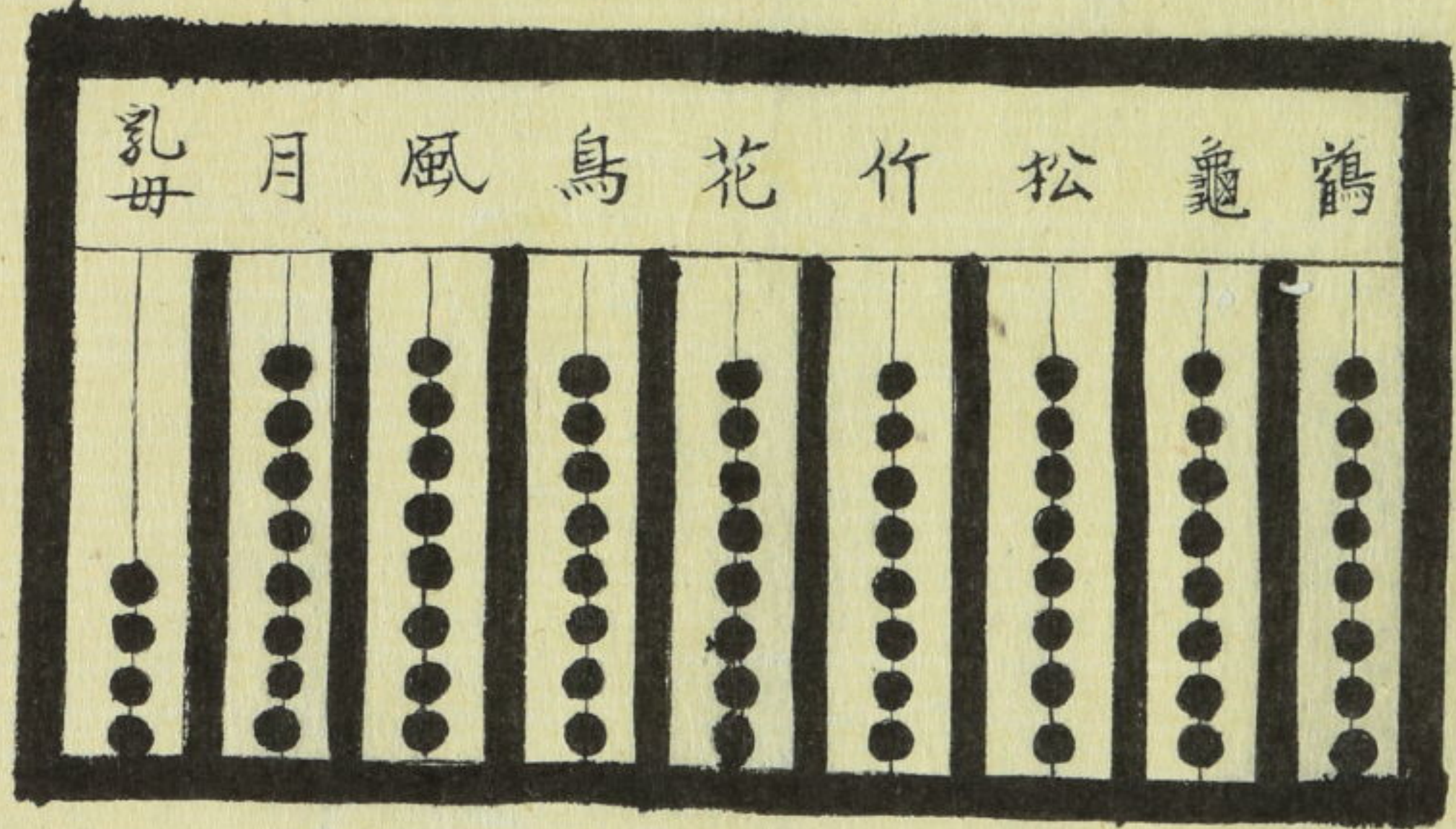
度刺板之圖

串くわのくわり
 いろくさ



大躰おほしづみ如此
 いろく物もの才さい此

紋取 算盤 之 圖



紋乃文字

好むとらふ

此のふし

○ 度入之事

一 上代ハ一度と矢二本と定メる。百度射をまきとも。
 度教お厚くして退屈出来るゆへ。中古ハ一度と
 矢四本と定メ五十度トある也。
 一 揚弓もし海り。度よ入るに中人數なりと申らざ
 り射之度よ入るに射之れ教なりとあつた時ハ
 物度よ入るといふ説不用之。度のもし海りかゝるを
 わらへて申すも度よ入る是法之。初度よ

夫通しとあるゆゑ近代の私事と不用之

一矢代乃人々の物事記あり但し矢代母のゆゑあり
まゝと座闌と

○結改之事

一結改ハ大前より海まで一むら百子の始度
此くおし結改かゝる五人より二人の乳母ハ園乳母之
うしゆる結改より約花のちり一紋の園三本
あしげ。落^{おち}乳母とらふ。もとへハ松竹上の紋あ

まゝと。いづきとるし乳母と子産し。結改かゝりの時
筒あふする。園^う何れか。筒入鳴^な後^{のち}より二
結改目より海までこのらも歴々ある。候之
一海^う結改を海する乳母を子中と三人の時
何れゆゑ結改海するにたよりず初度大前の者乳母
誰と名のまづ残り二人ハ組誰くと名乃たを
五度^ごマゝとせかゝる。但し六度目より十度迄も
中の者乳母誰と名のふ。前後^{ぜんご}の者又組誰くと

名の子十一度目より一子の者乳母と名付る。前
二人組並ト名付るめ廿五度之間段乳母と名付る

○不敷矢之事

一 一好まじ。二三好まじ。四ツ好まじとある中何れも矢敷
おぼくあるものを紋の敷きを入。矢敷りしを
何れもを入る。さる事あり其座の位を人合度紋
と名付る役人合是を定むる

○同矢之事

あつり同とて考敷すく事ある人
何れもあつり同とす。あつりもあつり

一 四同。三四同とす。四の矢何れも何同誰ト名
付るを記。後より二ツ入あり。三四同ハ三乃矢とす
四乃矢とすも何れも同リす

○齊矢敷算法

一 敷矢。一敷を五十本増。二敷を百本増
一 同矢。四同を其射手の四分増。毎人ハ四十分ハ
五十よりある。八十ある人ハ百よりある

一三四同ハ其射手の半合増だとハ早お人
 六十人。六十お人ハ九十に早お人
 一不敷矢一不敷を。其射より四分一減を。毎とハ
 百お人ハ七十五人。百お人ハ九十人。
 一二三不敷と其射より半減す。毎とハ百お
 人ハ五十人。百お人ハ六十人。

○ 敷矢之事

一ととハ百ある者ト五十ある者ト矢数又別
 ぬよの別七紋より立く是也。世に矢数とハ不
 是七度紋よりその役なり。其注の極子ハ合定は
 一度紋取より中利十月十日又注よりその
 五十一朱書。百一泥書。百五十金貝と度紋取より
 ありのく
但三十一と紅書。六十一と本卦より土
 朱よりそのあり是古来より一白書はる
 矢のぬき
 不用之

○ 矢数増之事

一十度目からしては事々少き事も矢数を本
乃遠あふ時を雅名たれは一乃入。あふひを二の
入或を二の入四の入とく。双方對矢は彼矢數
増よすもく。右もも双方對矢よきも頭からを
とふ。或は一乃入なれも二つありとふ。三四も同新
きも二つ三つ射勝たるも二つを二つの勝負と
きも二つ三つ射勝たるも二つを二つの勝負と

○嘉定之事

一 一より十六迄賀之事。大中小元の四枚

無扎ハ古來の射礼はなれもく。中古無扎二枚入
もしの座の真の真の真。其後又一枚加へ大小
と名付ぬ。又く中元乃無扎二枚を加へく四枚
と名付。龍虎梅竹也。花鳥風月也。大
小中元也。四枚の扎よ書て座の真の真の真
一矢數増し時。合け嘉定といふは十六枚の嘉
定扎四ツよ合け紋取の形。形してはくぬ

嘉定圖式

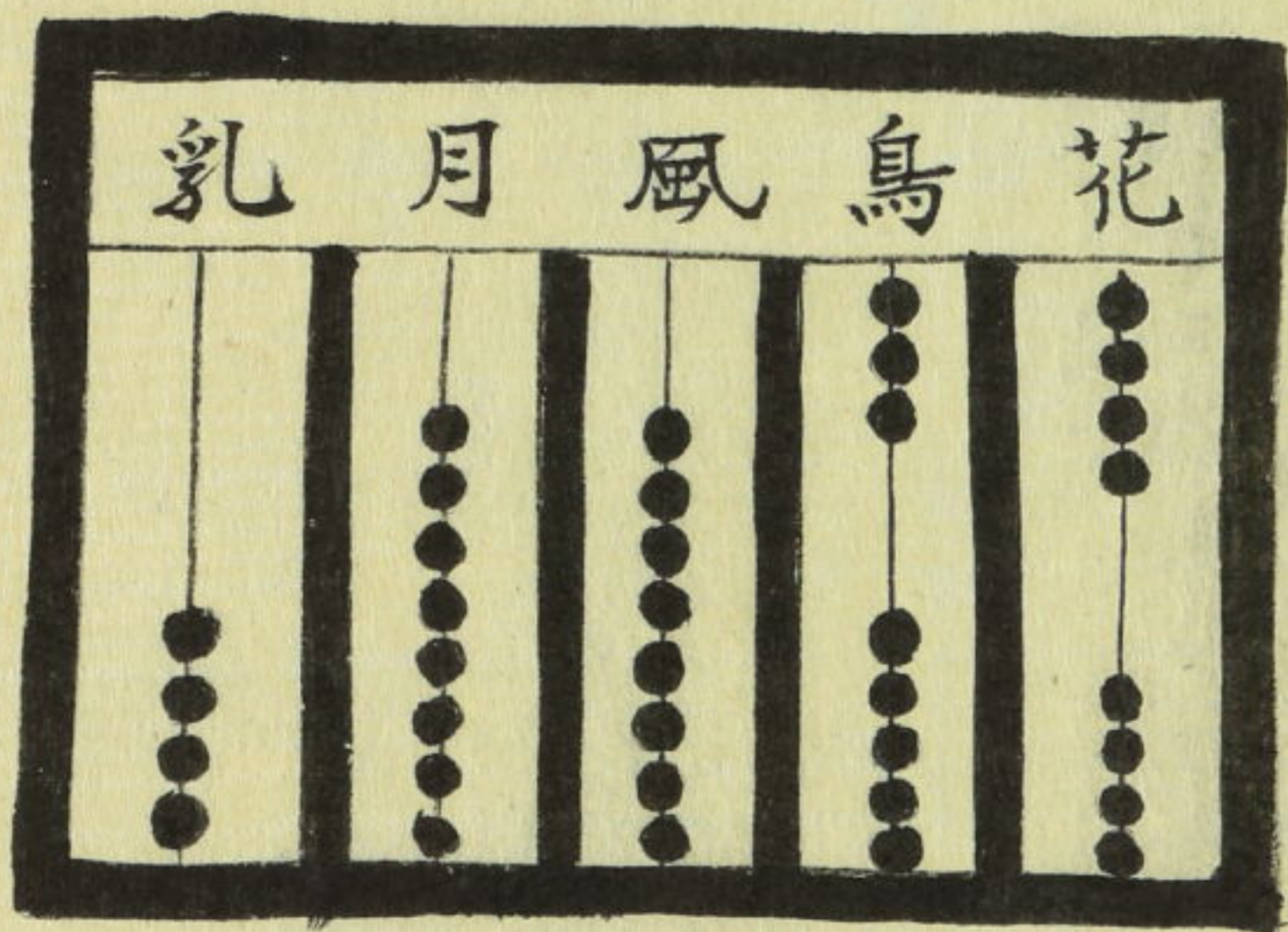
元	中	小	大
裏 六 此面	裏 十 此面	裏 二 此面	裏 十六 此面
裏 五 此面	裏 九 此面	裏 三 此面	裏 十三 此面
裏 八 此面	裏 十一 此面	裏 一 此面	裏 十五 此面
裏 七 此面	裏 十二 此面	裏 四 此面	裏 十四 此面

右之通大小中元乃無札とよはれ。字掛多
少相おれら治事に字掛おほく中時とちと

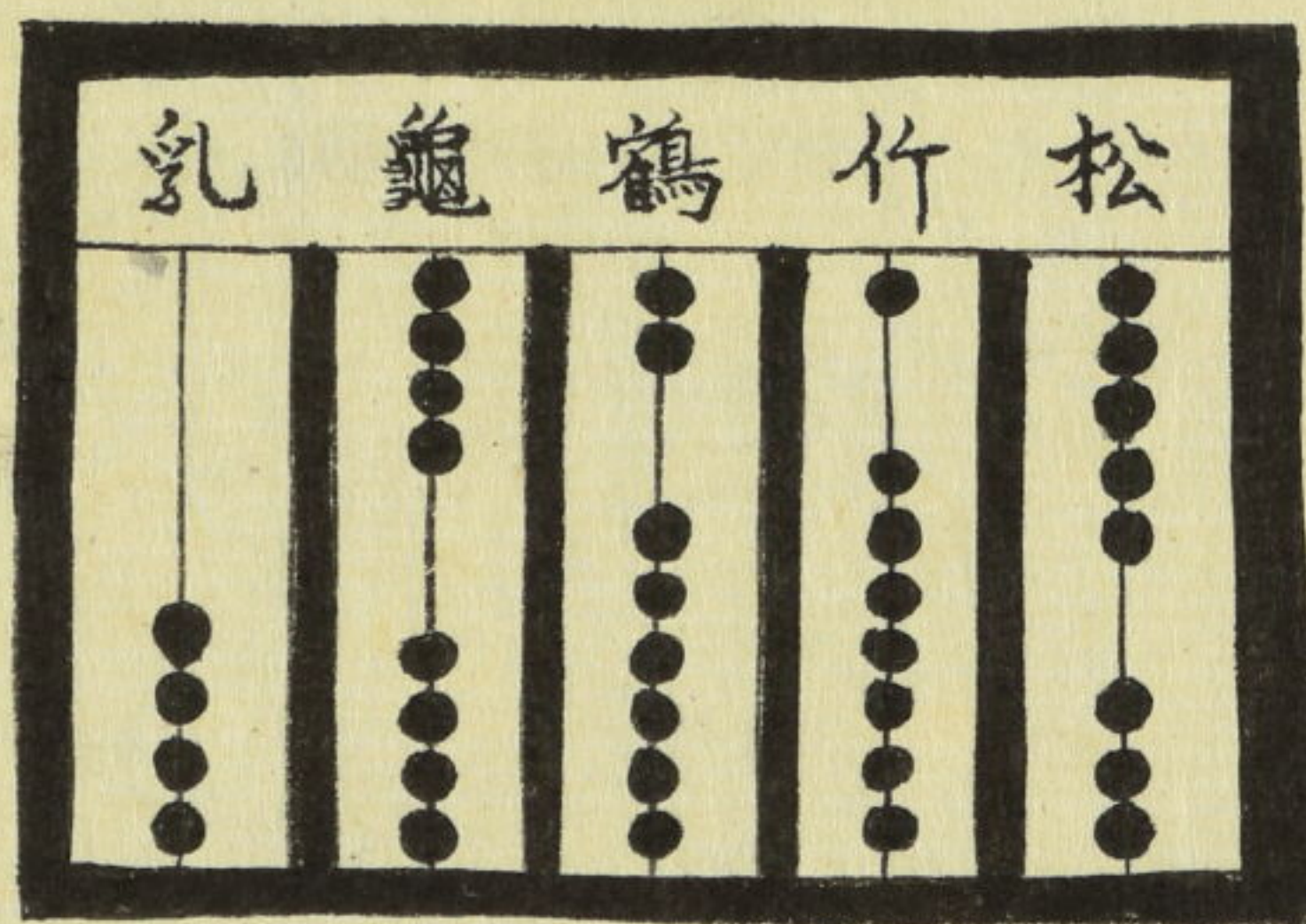
よ申の時と中元の札乃巾を用ゆ。少さ時とおの
れん大小中元の札を定之取夫のちるへ札とのけ。切
中此矢仕置札一枚とのろ紙おられ文字乃
敷よ合せ。字乃勝負すくえ
右と嘉定百手と角のろり之札一枚と
おほくちるうす

○ 紋之次第

花よ四ツ
鳥よ三ツ

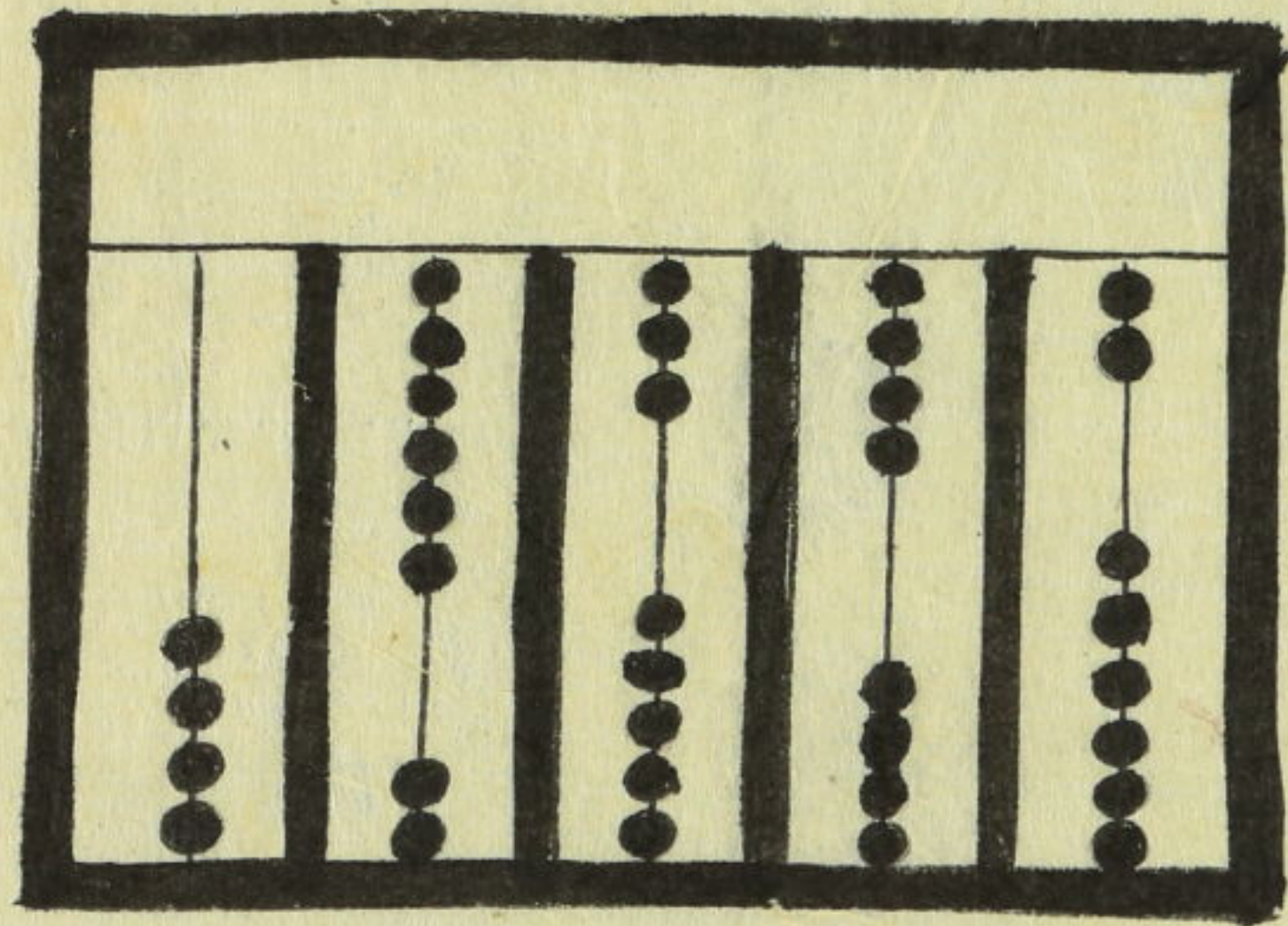


是花一あり
鳥よ三ツ
花よ四ツ四ツ
風月ともあり
三ツ三ツあり
同前

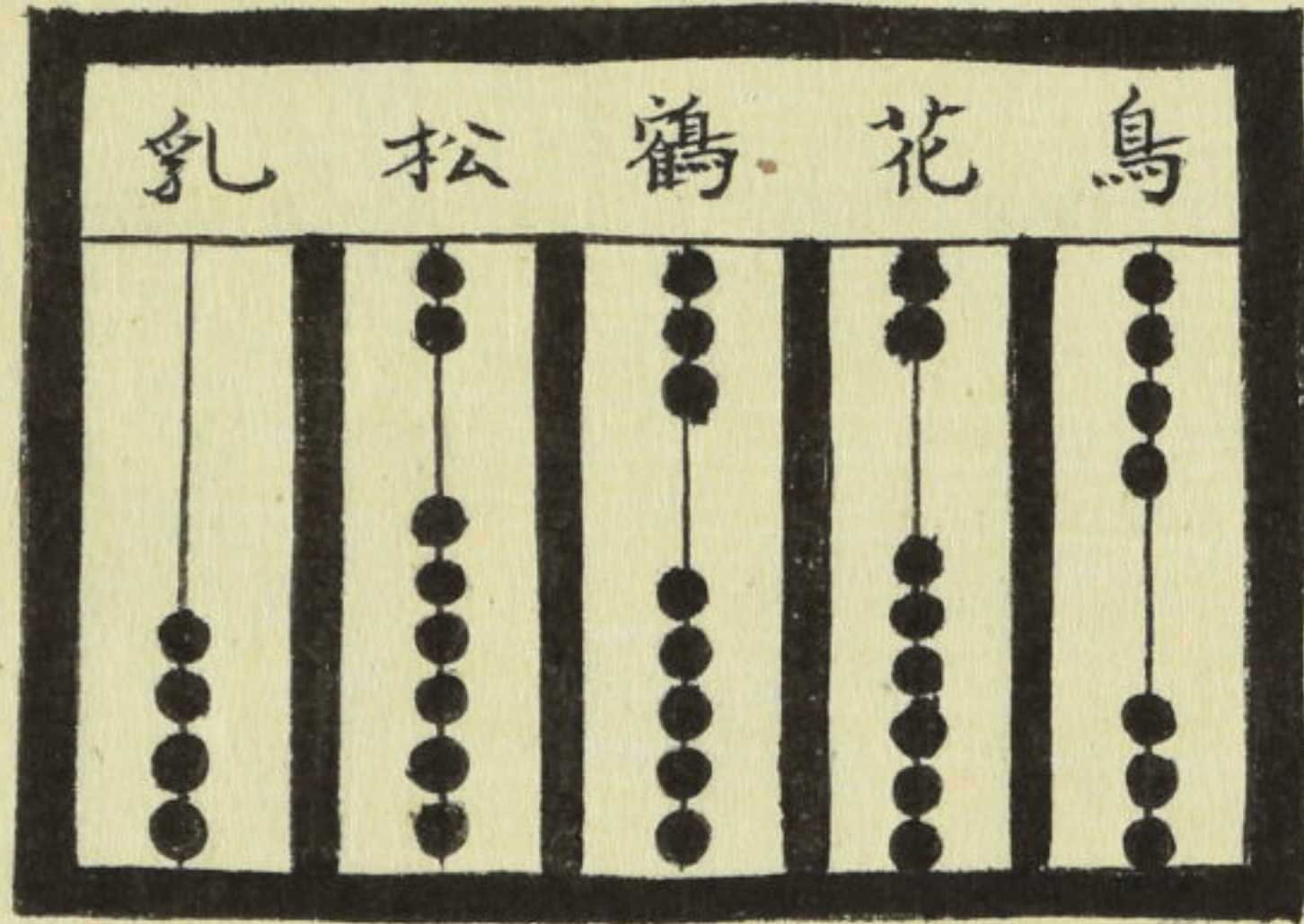


是松一あり
右之とく紋十露盤乃
粒一本ありれハ一粒入
數多組の加へ何立
と聲をひききし

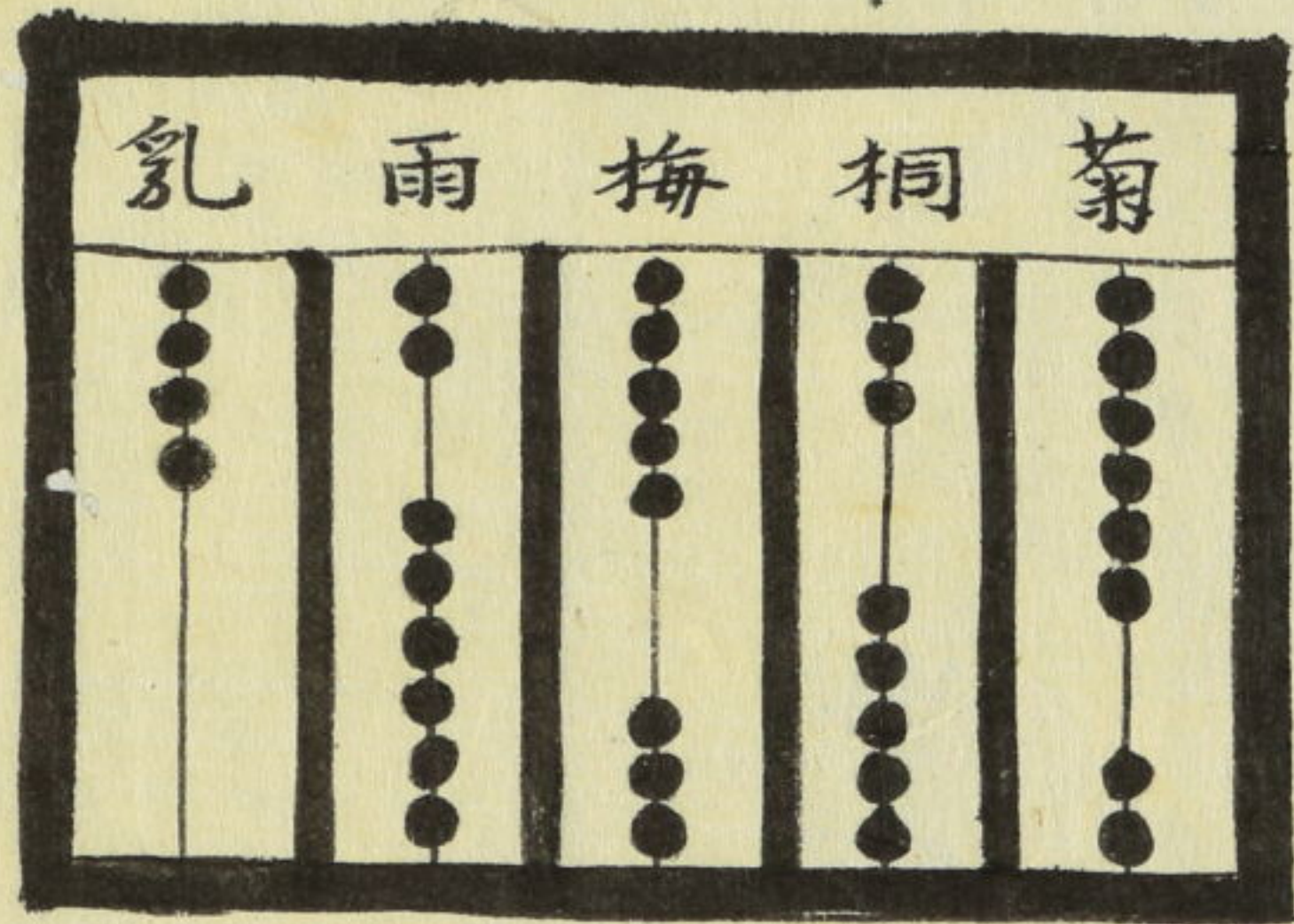
菊は二川
桐は四川
梅は三川
雨は六川



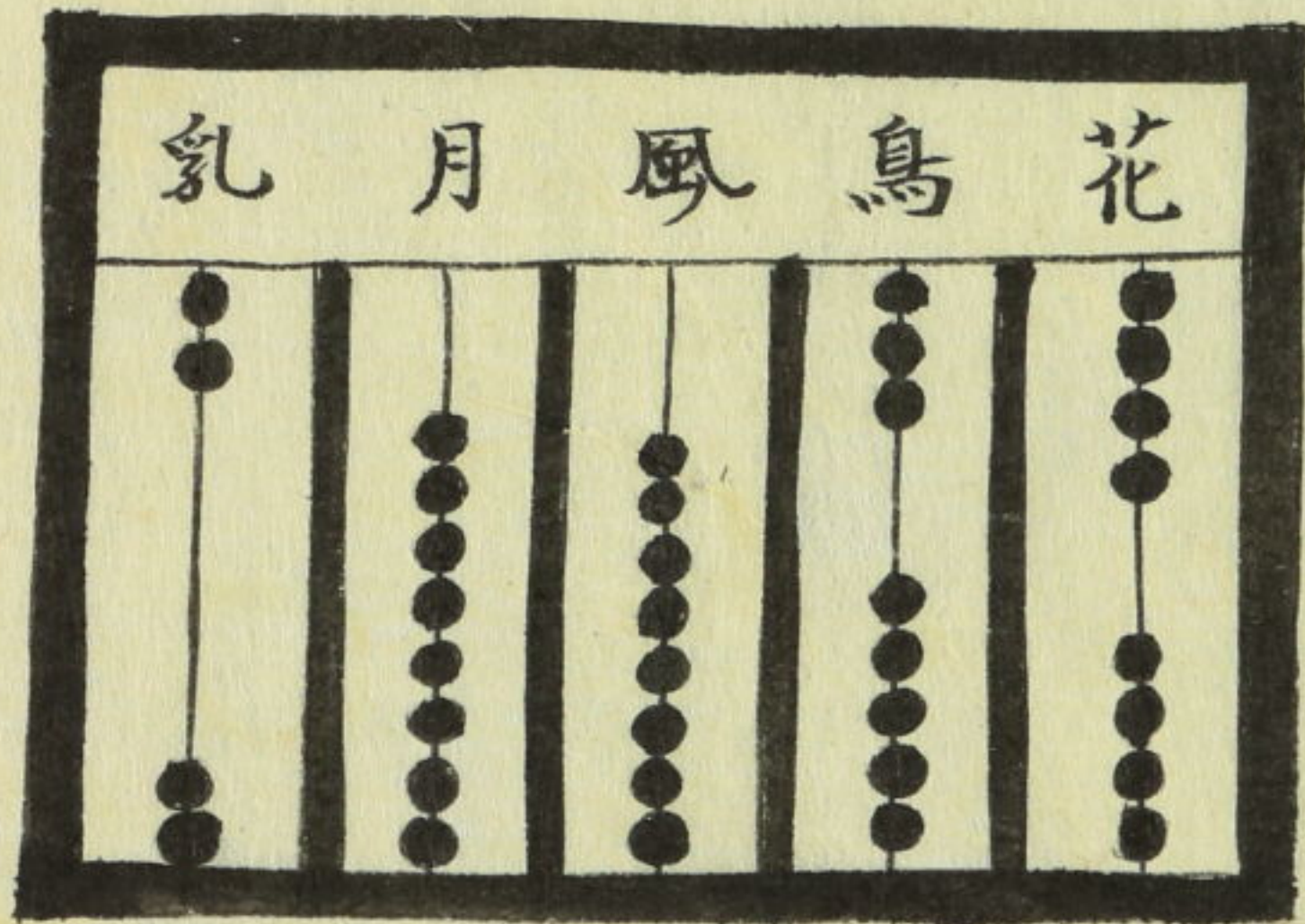
是雨二川
桐菊梅は三川
ありては
とては同前



鳥は一川あり
花は二川あり
鶴は三川あり
松は四川あり
乳は五川あり

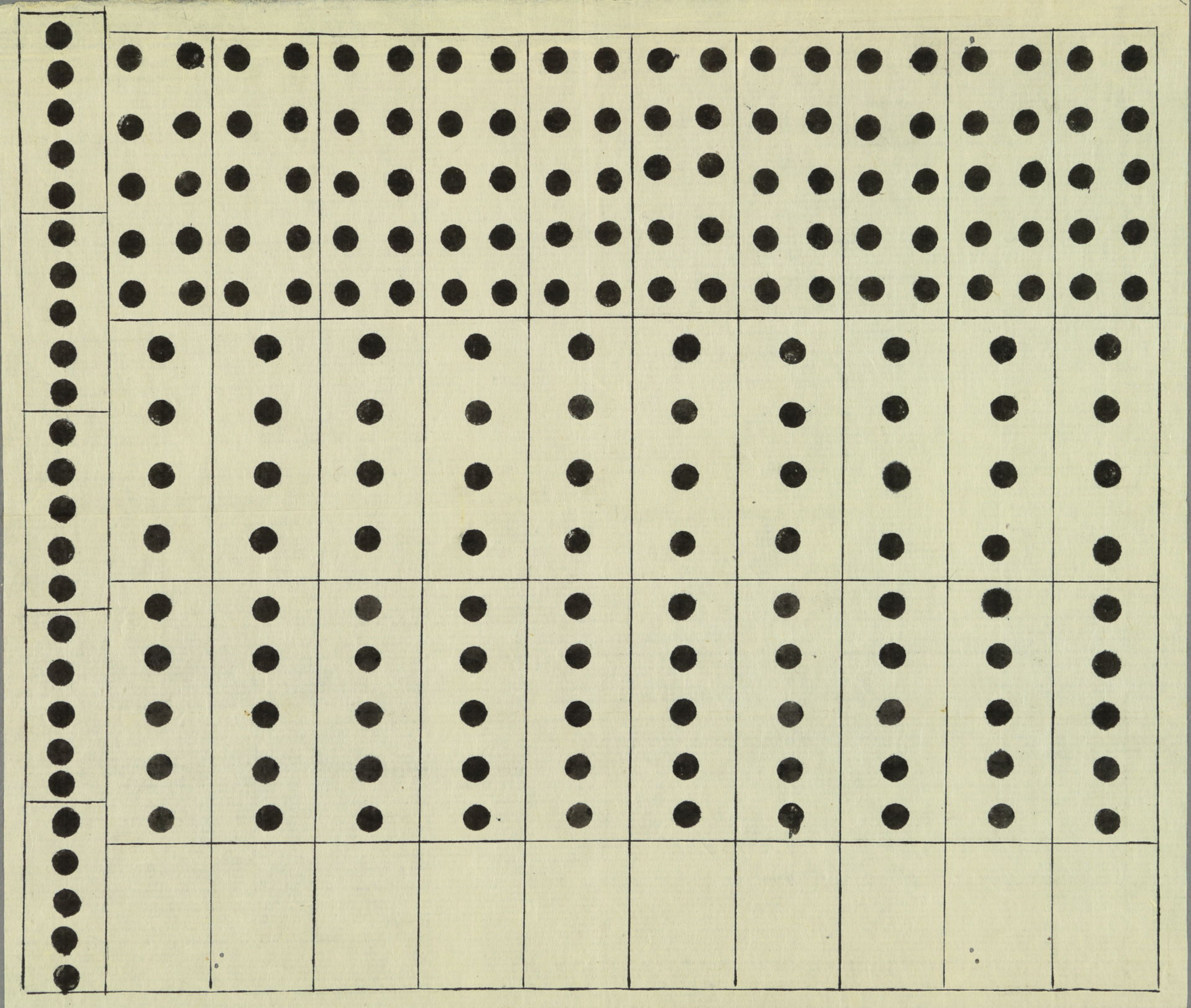


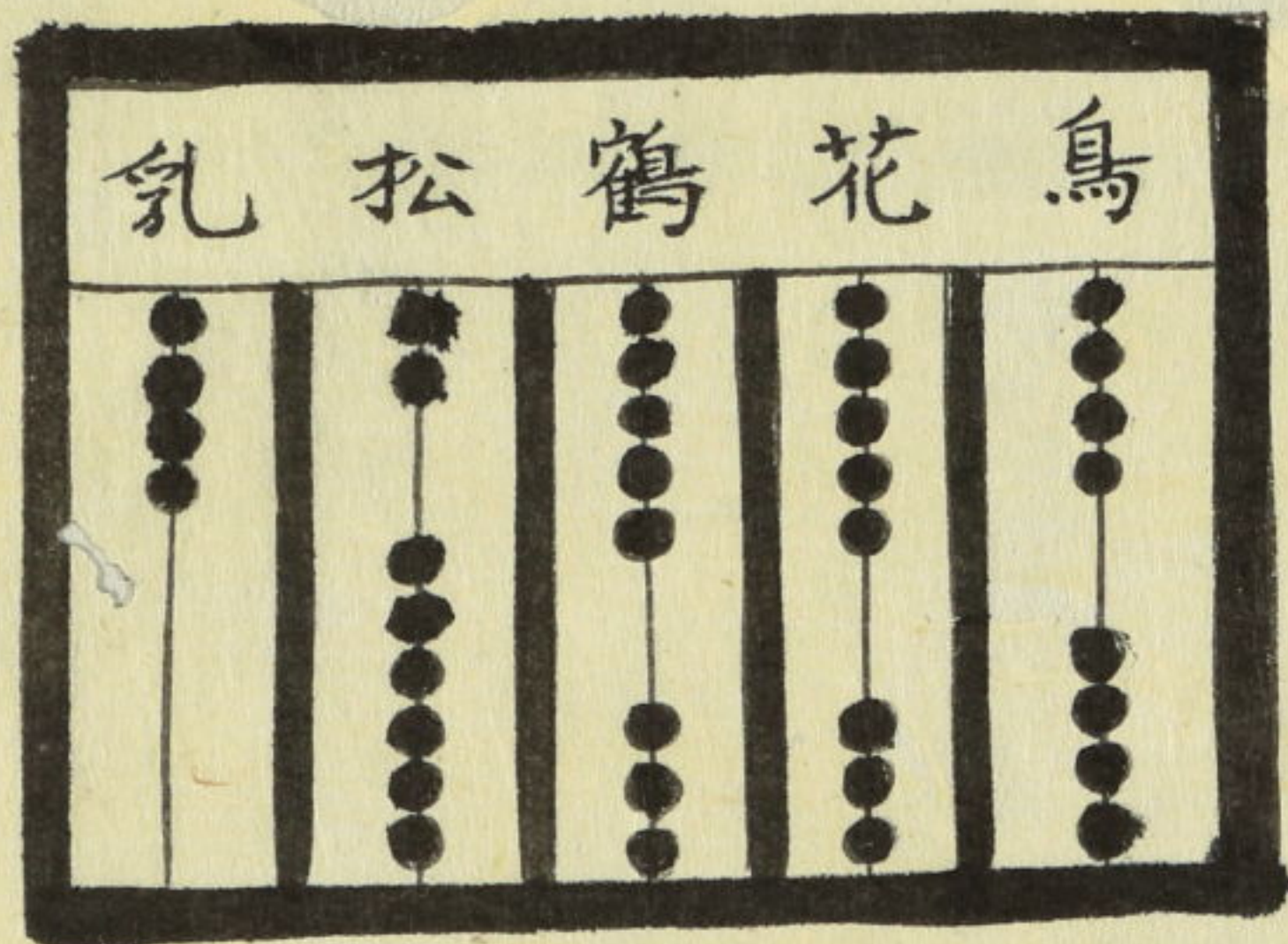
是乳一川
 四川矢于前
 与乃右同前



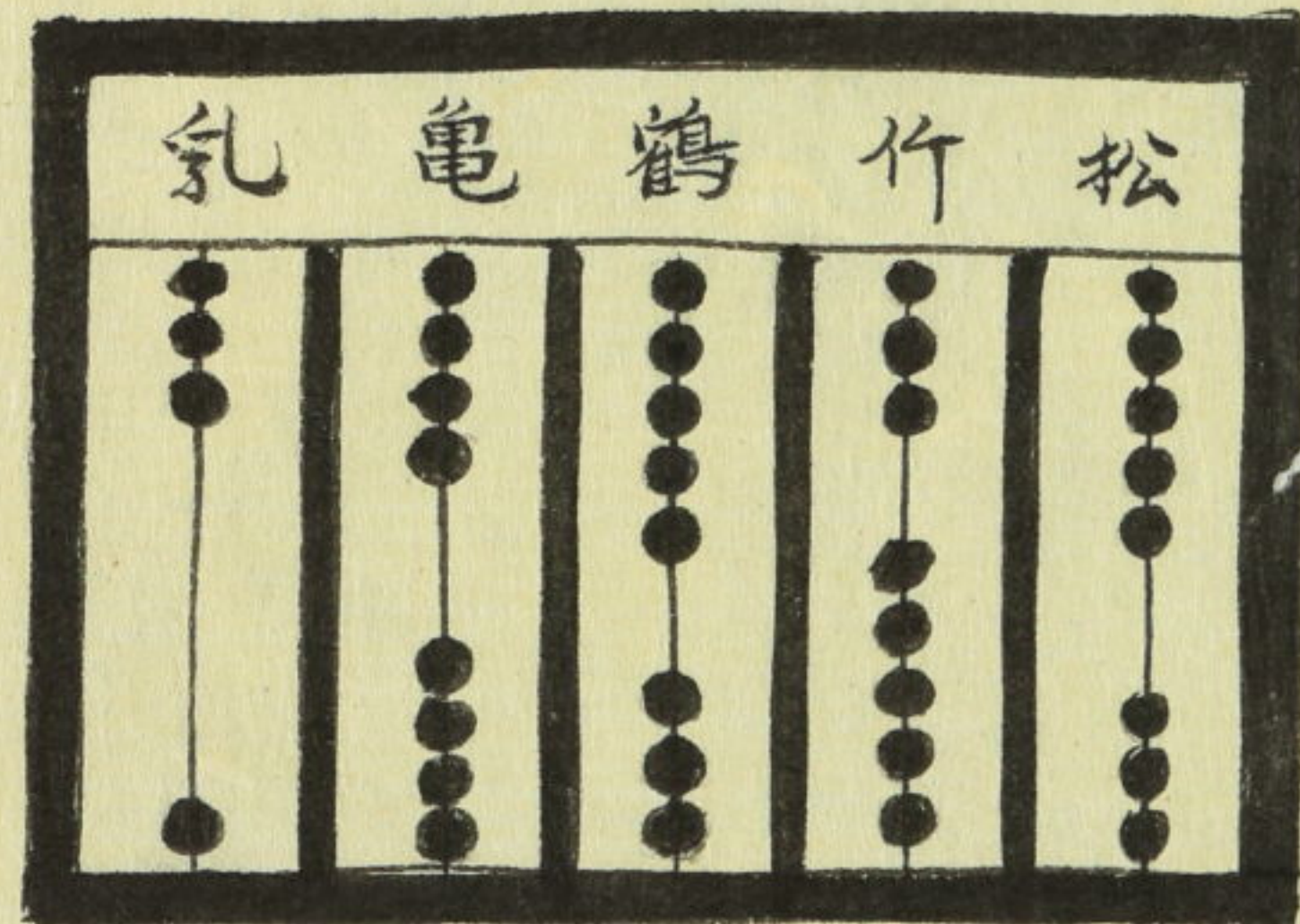
花之四川乳之二川
 是花乳消之
 乳之入役也一本
 之二本之五也

○ 乳母之立様之次第

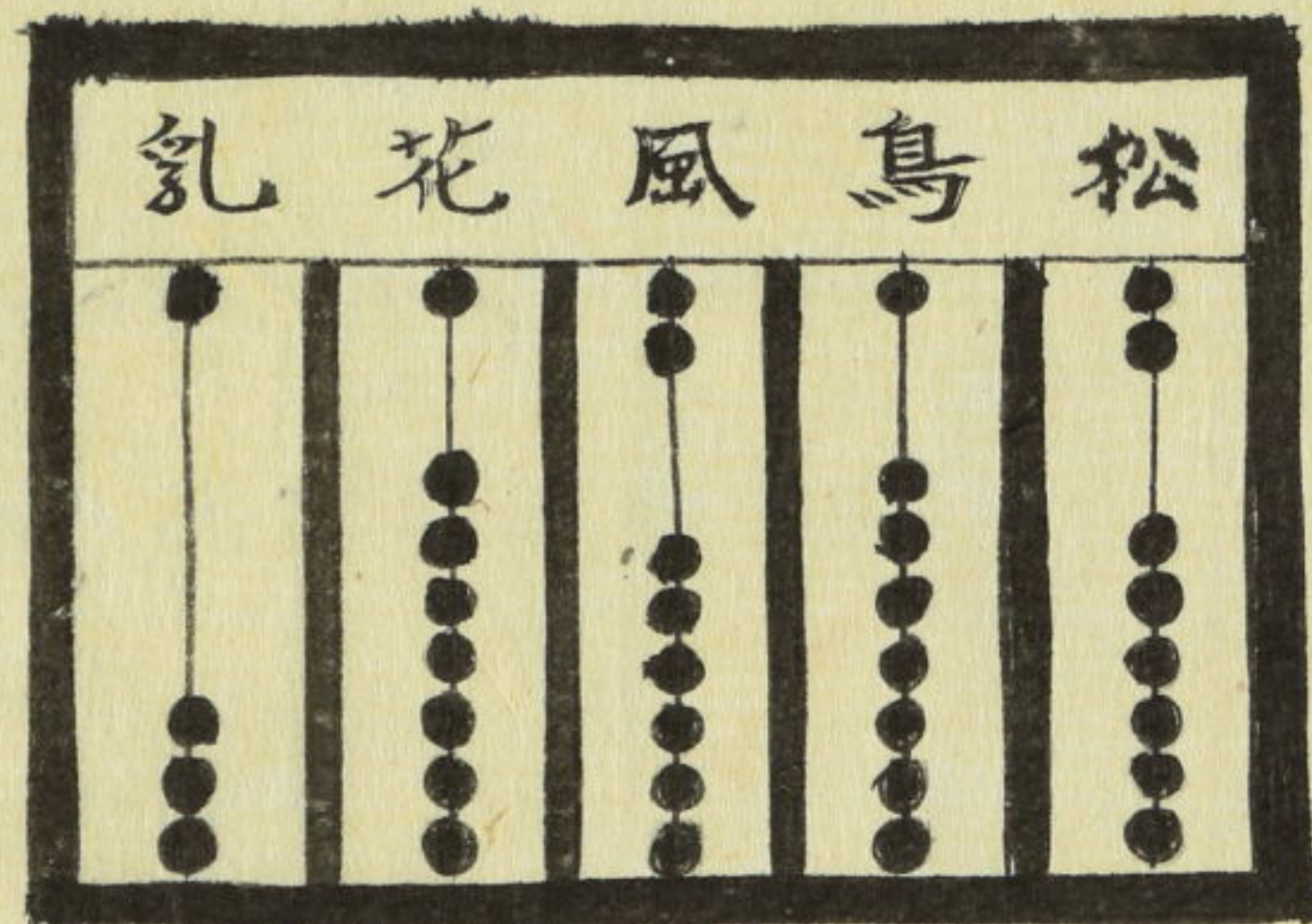




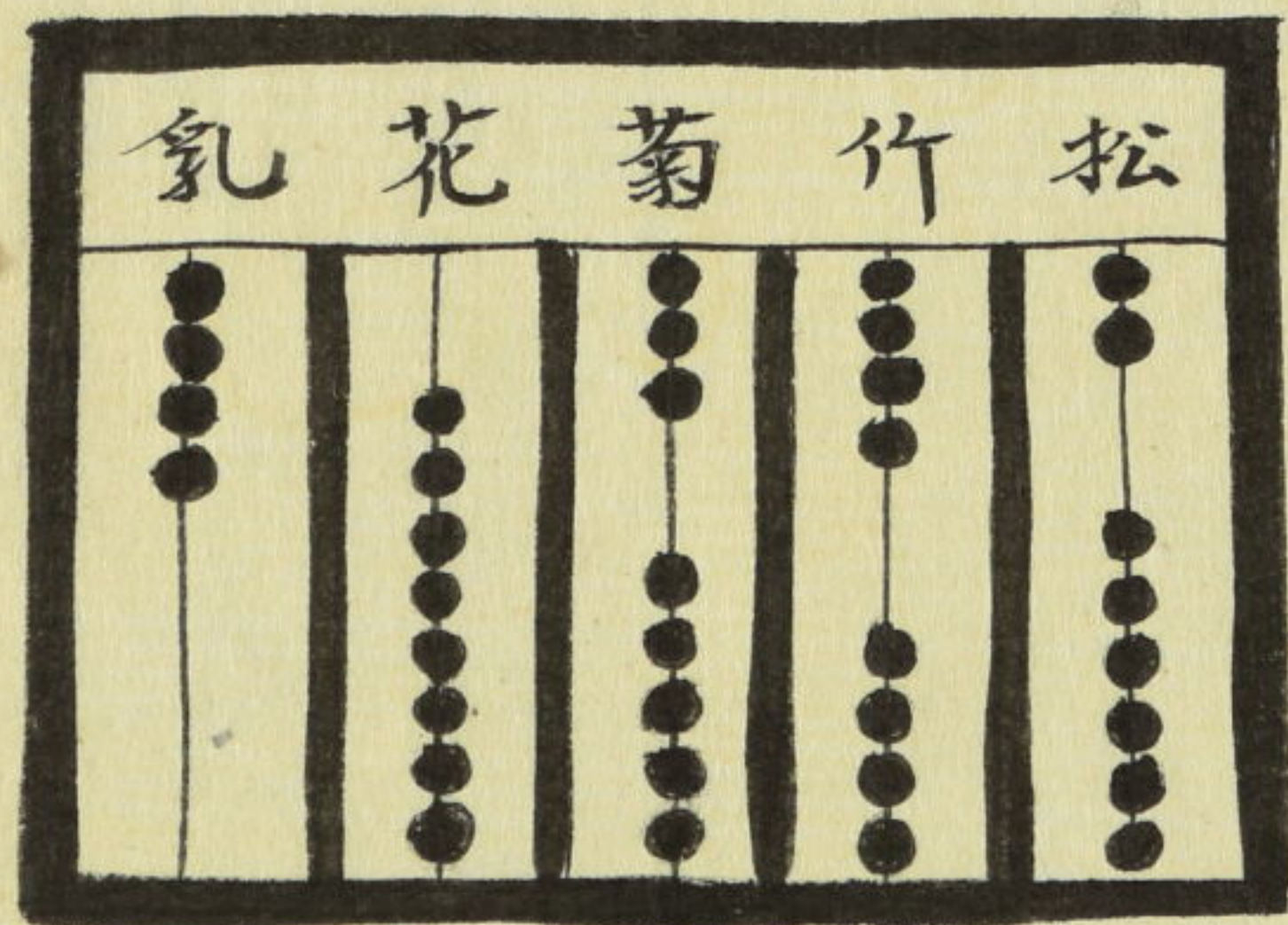
是 二字一字
 四川矢子前と
 矢一本あつる人石
 字二字あつる人
 中家人を一字あつる



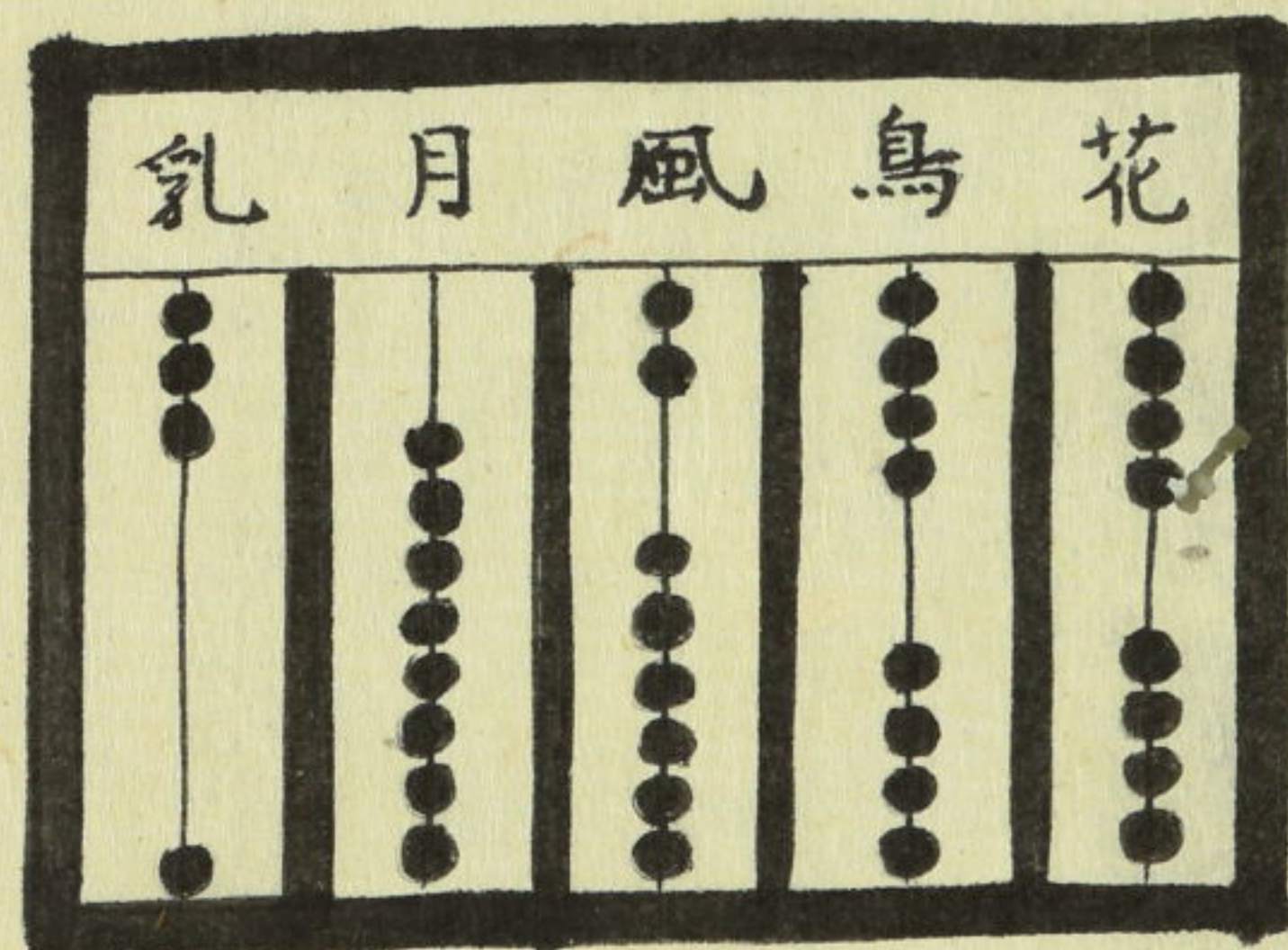
是 乳一川
 二ツ矢射のまこと
 子三川あつる人
 人石字あつる



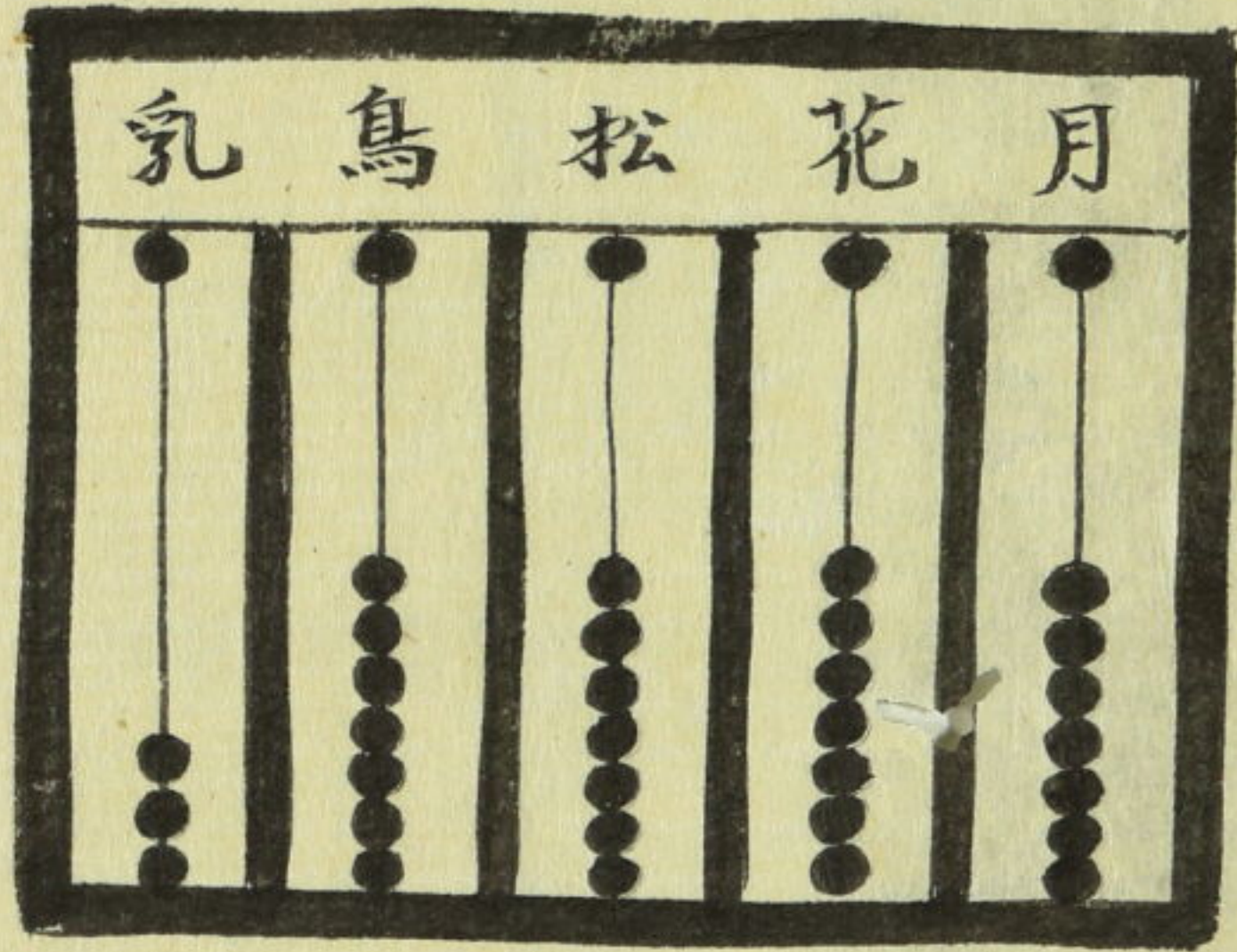
是 三 消 了



是 乳 母 惣 二 字 了



是 乳 母 一 了
 三 川 矢 手 前 了
 同 前



一乳母一とふ
 一河矢射のさ
 一怪へた一とふ

一乳母の矢一つあつて身が紋一ニツよきとま
 石字おとと記し二人をおとす一本が四本あつる

とけりやとく石字のさちりするえ

一紋の以事たよ記すといへる。未熟乃方の紋

古乃ととんかきひとくさるを

一乳母此者の鋪二本立同矢八四本立

一度紋より一矢。ニツ矢。三ツ矢。四ツ矢。手前トふ

と記。紋のこけれ同の矢。不敷乃矢。手前乃敷

やもろく右乃同鋪の者三本あはれまはば。三の矢

不敷紙ト名乃る四本あはれまはば。四乃矢も不敷

子。鋪もろり者は者者四本のははをを。四の矢と不致
 惟ト子。同乃矢の若を右同断。四本を無え
 〆よ四川を上ハ紋を上とたと

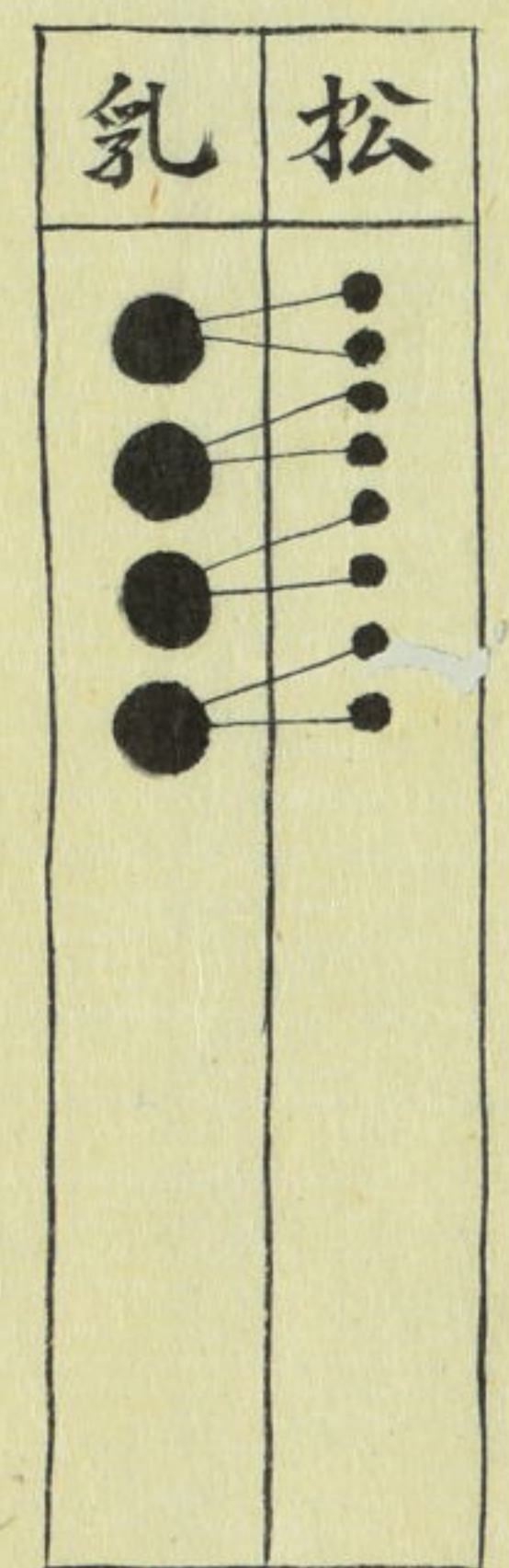
○乳母あふ時紋を取採乃事

一乳母取乃時を。紋のかれ中中と取得取と引合を紋取分
 乳母一ツ。三ツ矢手前。惣は二。或は二字三字なりととく
 子又紋のを取あむる。乳母乃をととと紋のを二倍が
 字と和ス。或梅二つ子時乳母を四字出とと

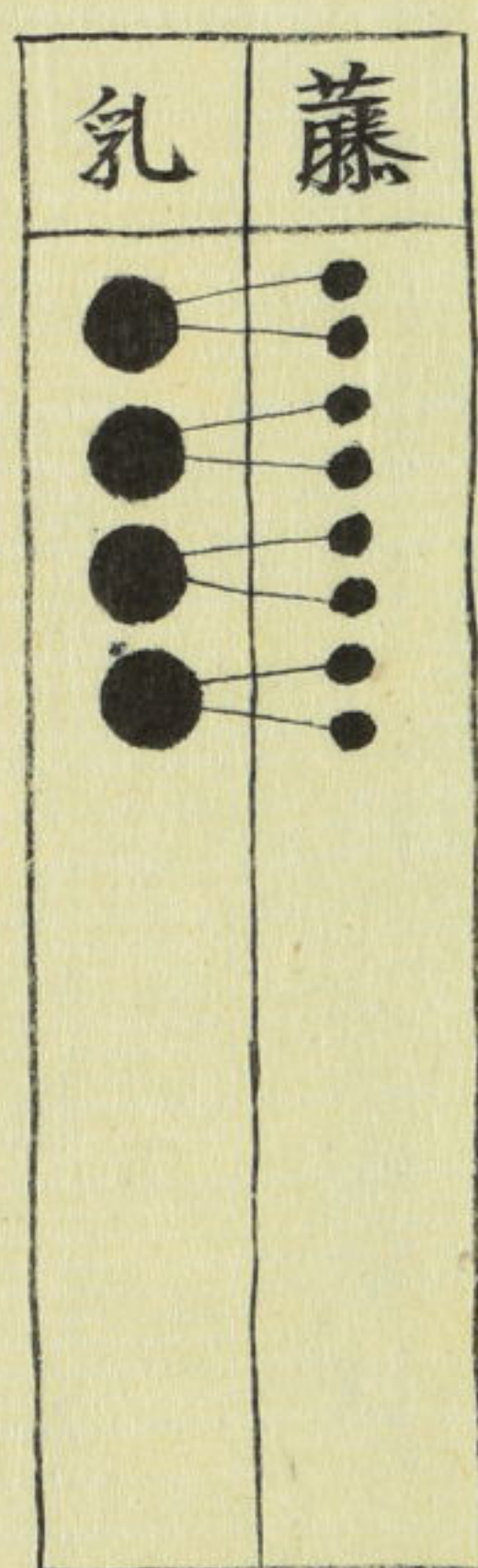
乳	菊	葛	藤	梅	竹	松
●●●●●	●●●●●	●	●●	●●●	●●●●●	●●●●●
	四 <small>つ</small> 中 <small>中</small> 者 <small>者</small> 一 <small>一</small> 字 <small>字</small> 出 <small>出</small> ス 不 <small>不</small> 中 <small>中</small> 者 <small>者</small> ハ <small>ハ</small> 二 <small>二</small> 字 <small>字</small> 出 <small>出</small> ス	二 <small>二</small> 字 <small>字</small> 宛 <small>宛</small> 出 <small>出</small> ス	二 <small>二</small> 字 <small>字</small> 宛 <small>宛</small> 出 <small>出</small> ス	二 <small>二</small> 中 <small>中</small> 者 <small>者</small> ハ <small>ハ</small> 一 <small>一</small> 字 <small>字</small> 出 <small>出</small> ス 一 <small>一</small> 中 <small>中</small> 者 <small>者</small> ハ <small>ハ</small> 二 <small>二</small> 字 <small>字</small> 出 <small>出</small> ス	二 <small>二</small> 字 <small>字</small> 宛 <small>宛</small> 出 <small>出</small> ス	三 <small>三</small> 中 <small>中</small> 者 <small>者</small> ハ <small>ハ</small> 一 <small>一</small> 字 <small>字</small> 出 <small>出</small> ス 二 <small>二</small> 中 <small>中</small> 者 <small>者</small> ハ <small>ハ</small> 二 <small>二</small> 字 <small>字</small> 出 <small>出</small> ス

右ハ二字一字四ツ矢手前た射の矢も

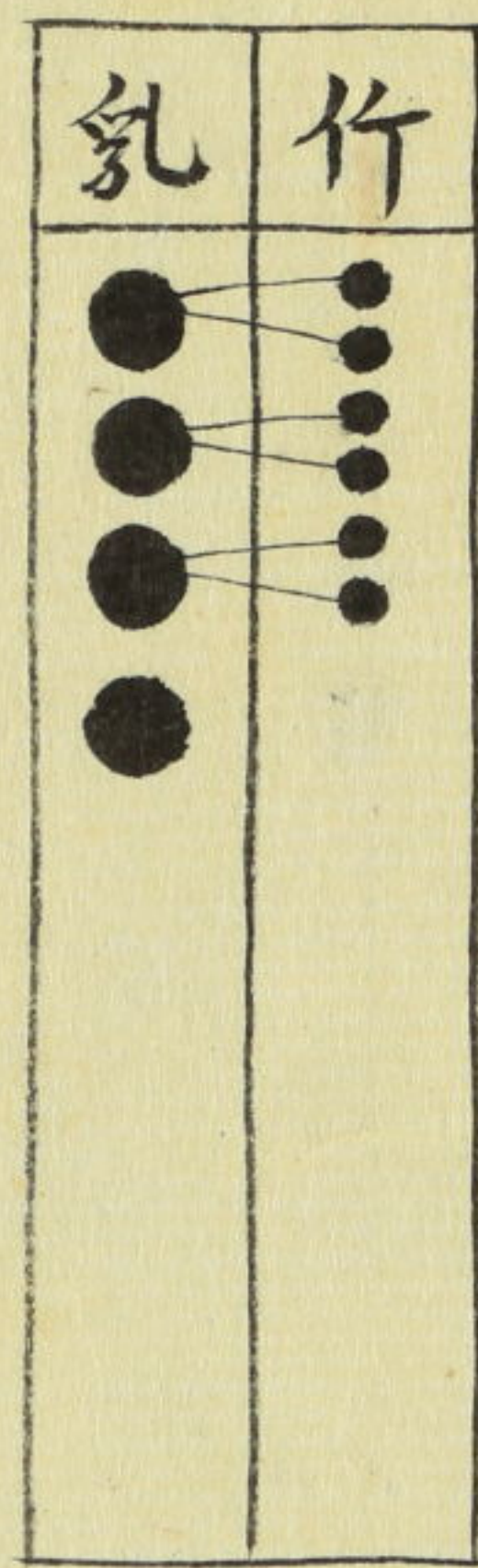
殺取と公



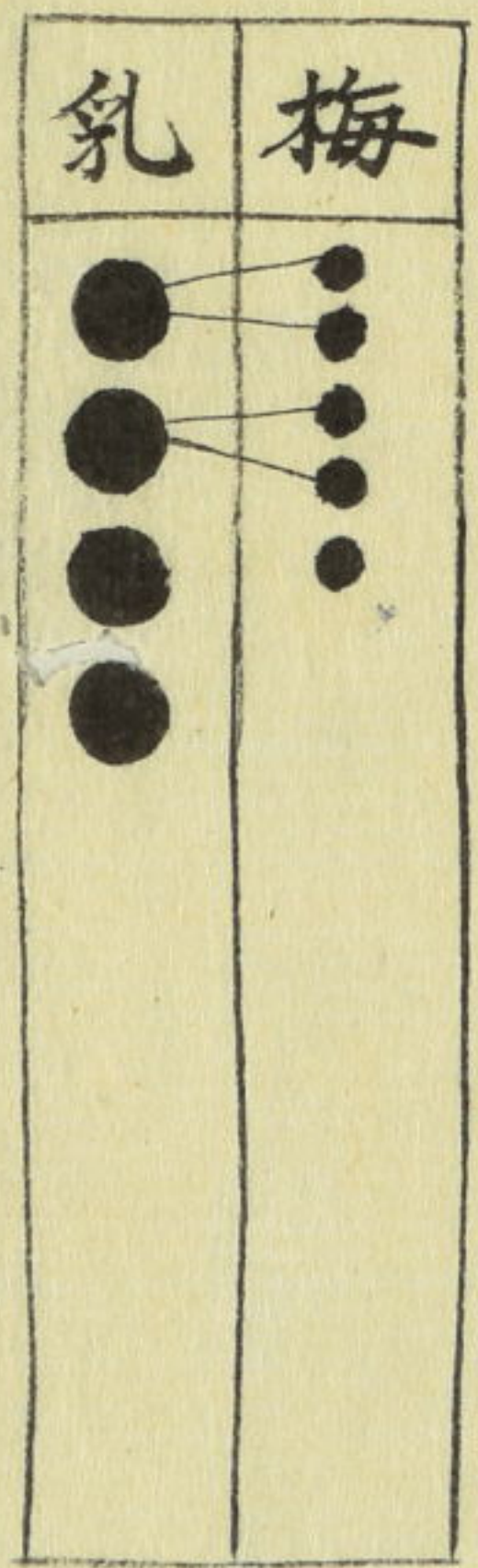
右乳お母ち松お持ち消え



右乳母一四ツ矢手前



右乳母惣一四ツ矢手前



右二字一字四ツ矢手前

右四字三字

乳	葛
●	●
●	
●	
●	

右惣三

乳	竹
●	●
●	●
●	
●	

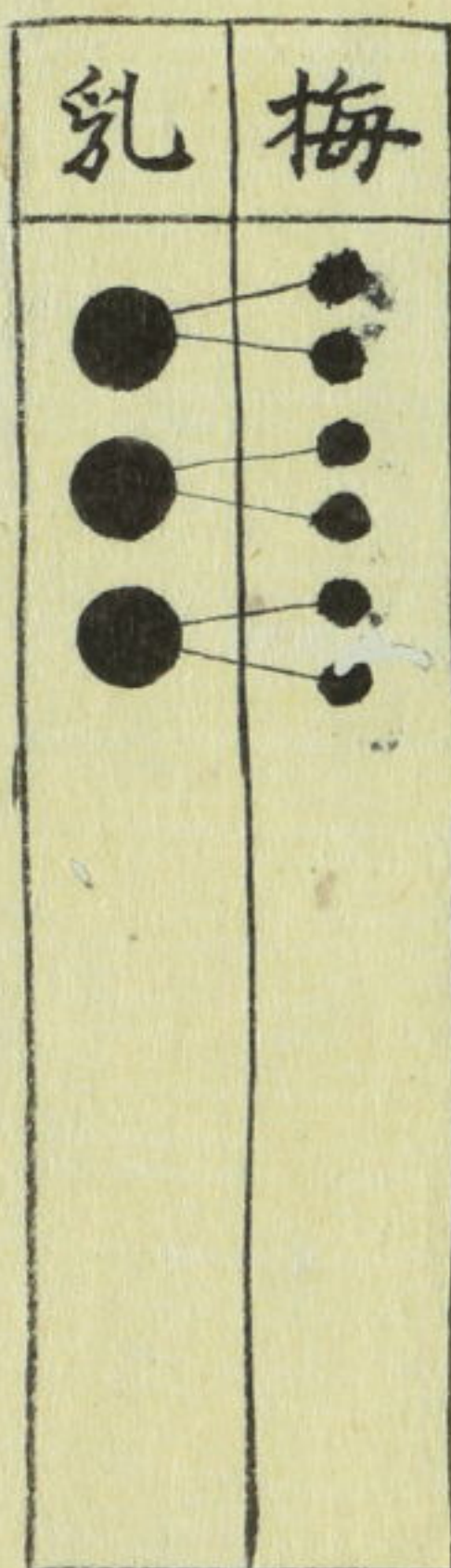
右二字三字

乳	菊
●	●
●	●
●	●
●	

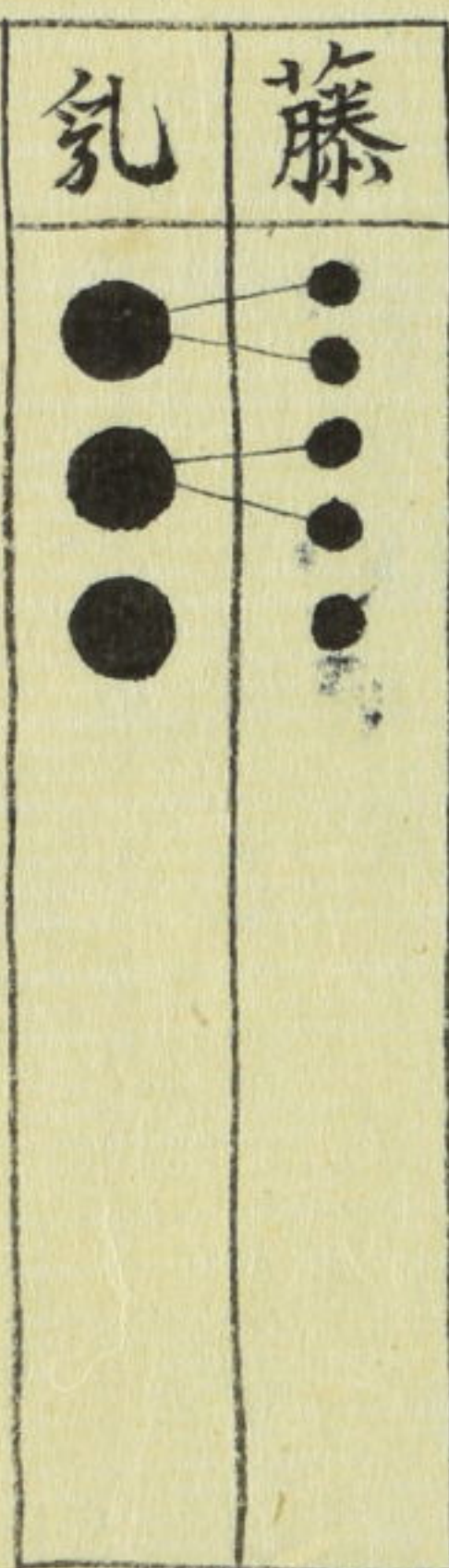
右惣二四ツ矢手前

乳	葛
●	●
●	●
●	●
●	●

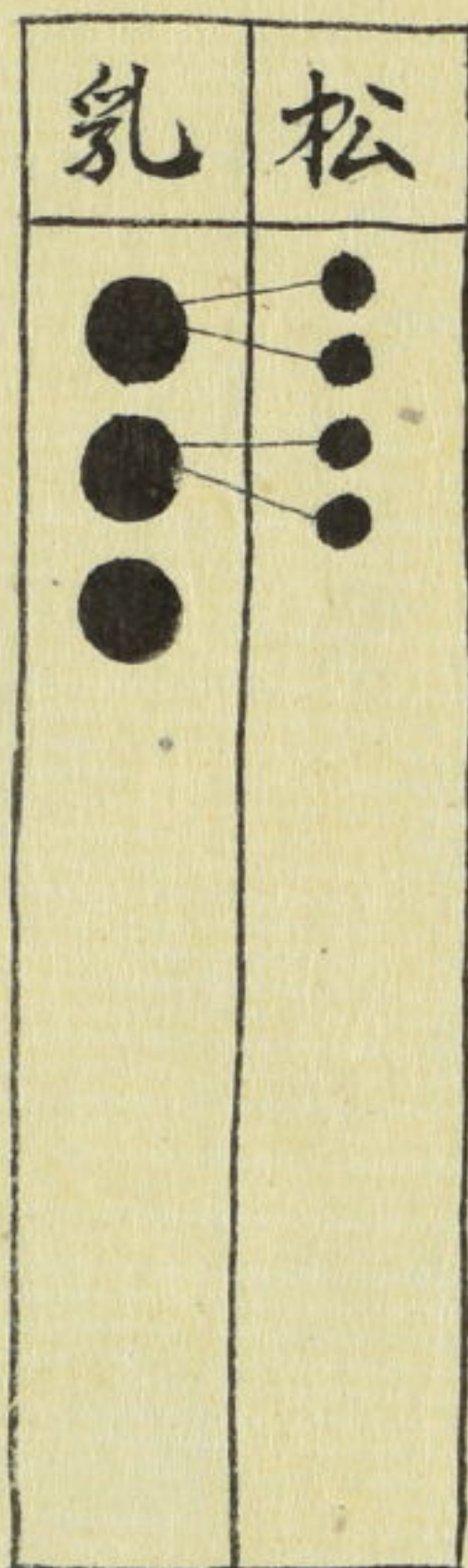
右乳母梅持消



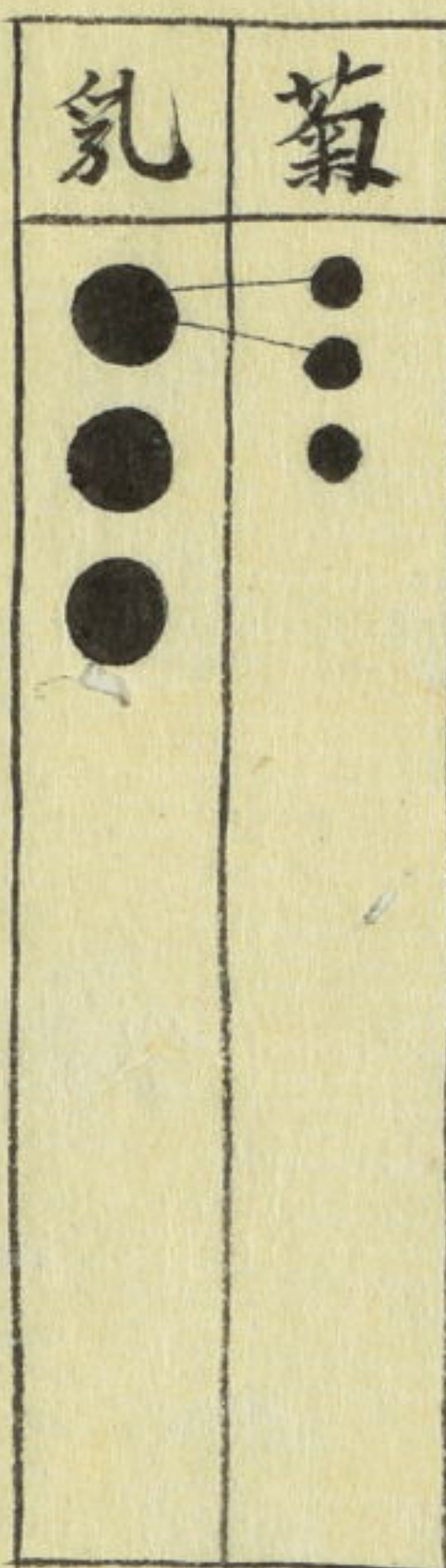
右乳母一三ツ矢手前



右乳母惣一三ツ矢手前



右二字一字三ツ矢手前

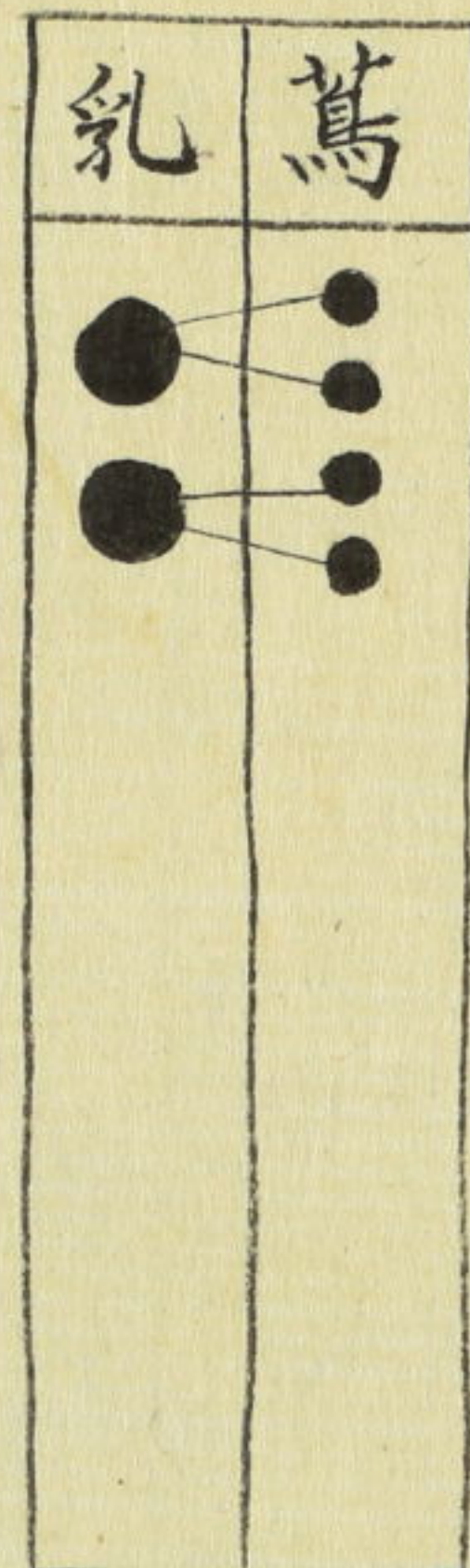


右乳母一

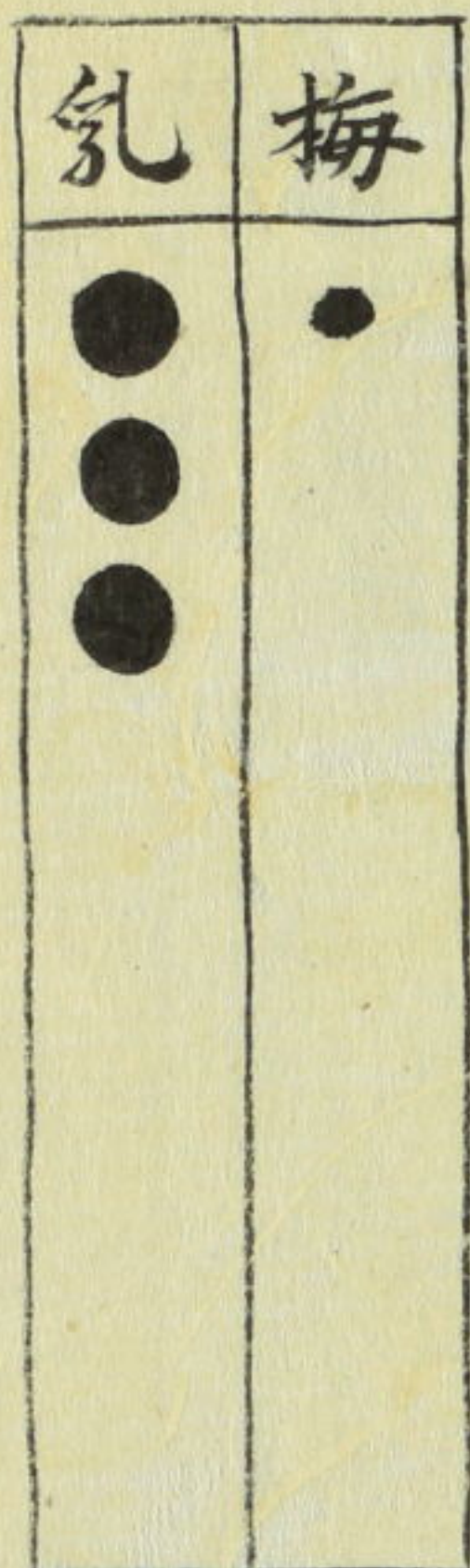
ニツ矢手前



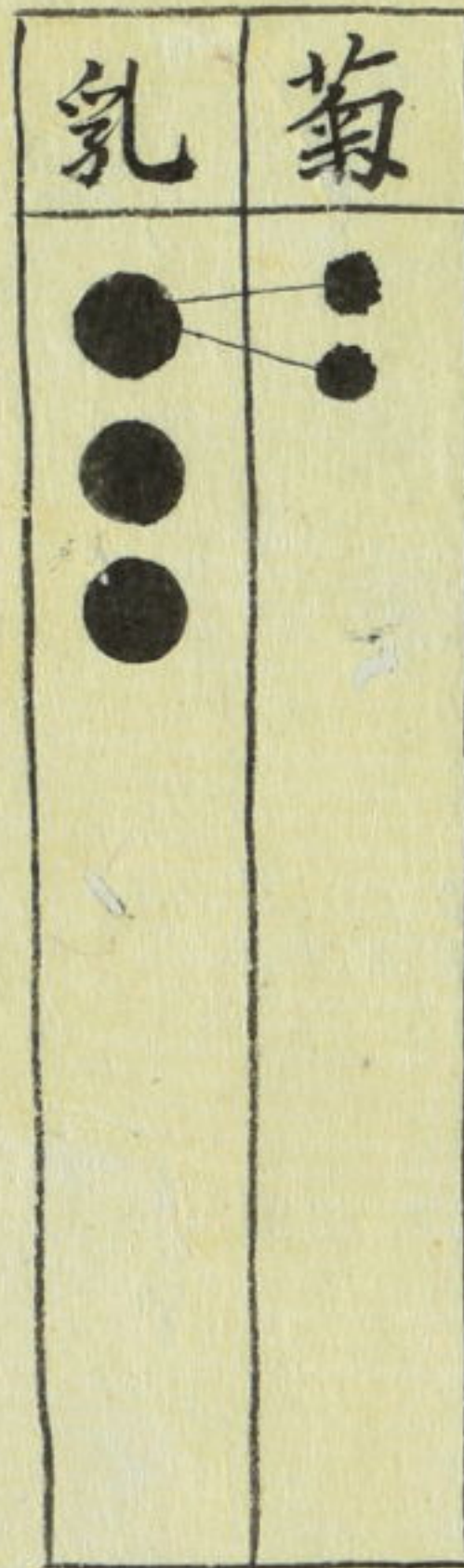
右乳母 葛くわ持と消く



右二字三字



右惣二



右乳母惣一

ニツ矢手前

乳	松
● ●	● ●
●	

右二字一字

乳	菊
● ●	●

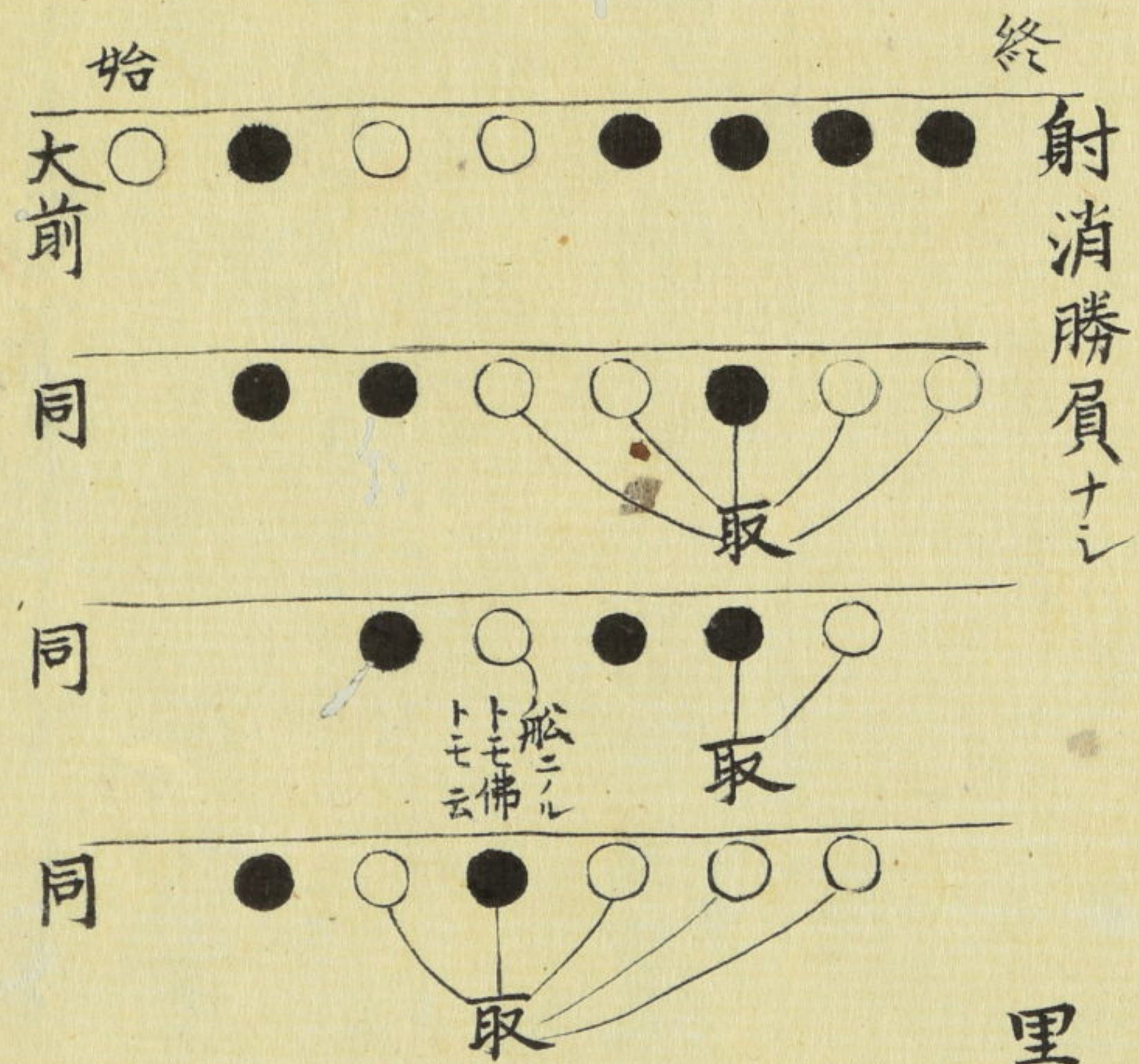
右乳母藤持消

乳	藤
●	● ●

右下子一字ニ。あつる者乃かゝるは一字

おとあつる

乳	松
●	●



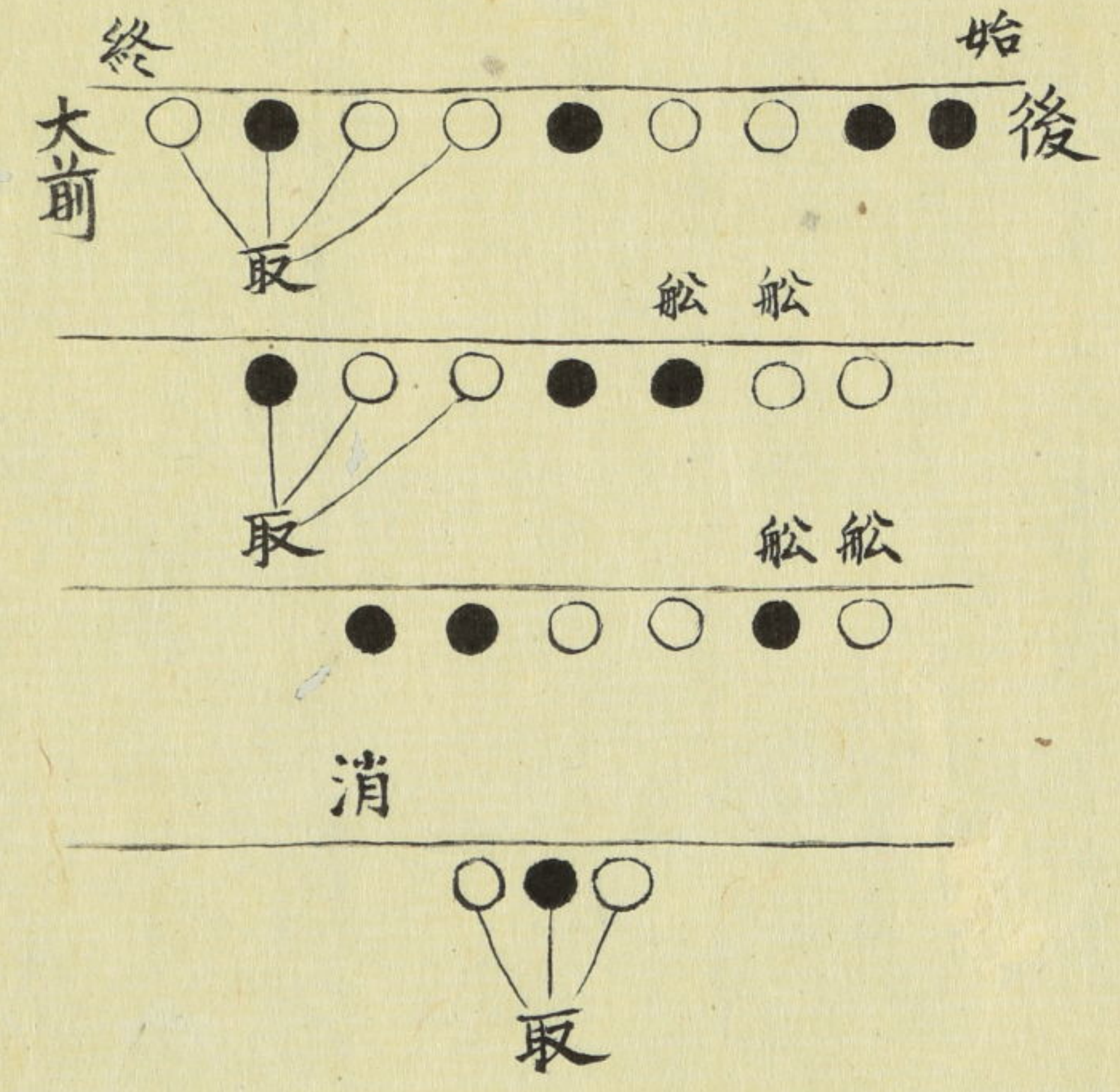
黒キワ中^{アタ}リ

四拾九度目

一結改ハ四拾八度目分納じ。四十九度。五十
 度の兩度矢通^{ヤトウ}ト云。四十九度目ハ大前^{オウマエ}と云
 不^フと云てふくよおくうらよそおさやを
 又大前^{オウマエ}もよそくひるん五十度目ハうら
 ともおもいひるん
 一江戸をよそくひるんといふ京をよそくひると云

船の者ハ字をおす事あり。二字の勝負
 射消乃時を一字と矢取をおす事あり。
 五十度目うゝあかき中へ射をうゝ
 一矢通りまじりのまじり其座の定メよとあり
 十字ありひを二十字乃勝負と

五拾度目



一矢通ハ何れもいけん入之。射消の矢何れもいけ
其前の何れもいけん者も船とて字不本五十度目
と射消乃矢の後の何れもいけん者船とて字不本
とていりよ何れもいけん一乃矢誰。一乃矢をい
度取へいけん

○ 錐穴之事

一 百手のうち何れもいけん十字法遣す。射手矢
取と二川よ分テ取すもいけん。二川よ分テ紋取へい

此りす。射扱嘉定源平乃時ハ錐穴ハ二十字
宛。但し源平ハ錐矢字味方ハ不本。錐矢の節
脇乃何れもいけん抜るもいけん。錐上聲ハ何れもいけん
錐穴よいけん。東穴とて一二ト錐穴をいけん。一ハ
右乃字の勝負。二ハ百字之。二トト續けたる
錐矢東穴よいけん。三四此れいけん。錐右同東穴之

○ 源平之事

一 紋取嘉定札とよくいけん合せかすもいけん。但し二十

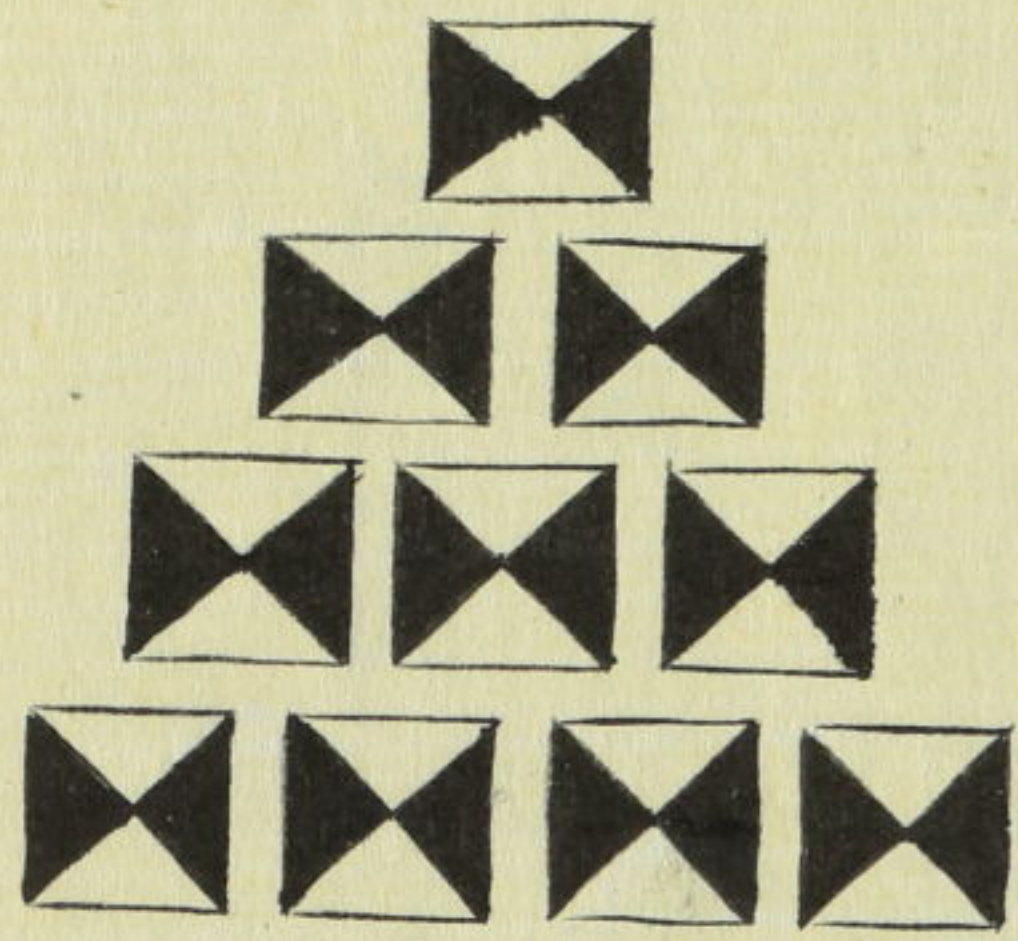
牧乃札も七又ハ無札四枚惣凡。十六枚にては双
定メ以専白黒乃石ニツ合ケあるの札乃脇並
源平乃矢割も人教又ハ中利の位と見え
以方對様たいやう合ケ。掛字ハ一人よて二十字三十字
も七加らる人少き方ハ其字をある中同ト
扱あつかす。每々ハ白乃方三人ハ六十字おせば
黒の方二人ハ六十字出也。何れも初手はつてあ
每り此本白ハ成なりく。白黒乃肉石ハ合ケ敷と

そのある者引残。その故りと札を引くは文字
を改メ字を引く。譬言ハ札おほくともそのり其文字
おきり。ある同ト矢教の時を以乃度中
里をぞり。札躍おどりハそのあり。中ちゆう躍おどりハまきば
中利と一倍いちばいも。札躍おどりハれを札の文字一倍
かして字を引まきく

○射扱之事

一之矢誰。二之矢誰。ト各集あつて。二字宛の勝負之

一 榻なるを矢嘉定たけのくに。如此字をたしむる
 一 二三四乃中よりとく互に差引一子乃矢ハ一字
 二 六二字。三六三字。四八四字乃勝負之



一 洛陽并江戸の射場乃所付と記ス事若八田舎
 どり揚弓をんげけ。席望む人お母一且又揚弓
 興隆きんりゅうをまじふら師矢師の本名所付也記ス

○ 洛陽射場所付

○ 上京大峯之厨子

祐清ゆきよ

○ 粉川通下立賣下町

伏見屋 五郎右衛門 慶有

○ 白山通誓願寺下町

蠟燭屋 甚兵衛 延長

○ 西洞院通生洲町

松屋 利兵衛 松利

○車屋町通御池下町

丸屋源右衛門

○佛光寺東町

龜屋市郎兵衛為久

○江戸射場所付

○橋町二町目

鈴木三意一計

○湯嶋ツシマ天神之門前

柏屋甚兵衛

此外所々イナモリトウチイタシ雖有之打出而之射場ニアラス故ニ不記

○洛陽弓師

○室町通一條上町

琴屋今井長門

○上京天神之厨子

正河彌長左衛門正長

○四本立賣高倉東入町

荒井孫左衛門忠良

○白山通四本上町

吉田左兵衛定廣

○洛陽矢師

○寺町通下御靈ミコ之前

小倉出羽掾中親

○御幸町通姉小路上町

鳴村平十郎 貞道

○四糸通長刀鉾之町

田村八郎四郎 由治

○四糸立賣富小路東入町

柴田九郎兵衛 定景

○洛湯揚弓的并管師

○御幸町通五糸上町

玉屋 六兵衛 宗房

○四糸立賣柳馬場西入町

管師 右兵衛 定清

○室町通今出川上町

同 清兵衛

○江戸弓矢師

○湯嶋天神門前

深谷源太郎

○同所

同 久左衛門

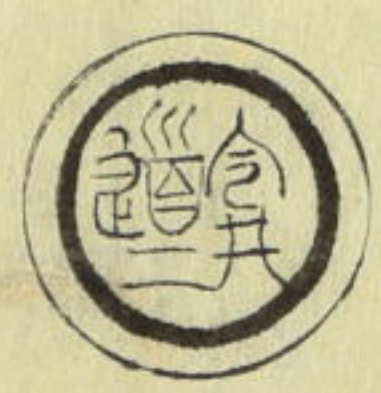
○湯嶋妻戀町

同 勘左衛門

貞享五龍集 戊辰林鐘下幹日

維陽之産今井一甲條筆于江府

客舎



揚弓射禮蓬矢抄追考終

貞享五戊辰年七月朔日

江戸

大坂

洛下

日本橋中通萬町

御堂前 森田

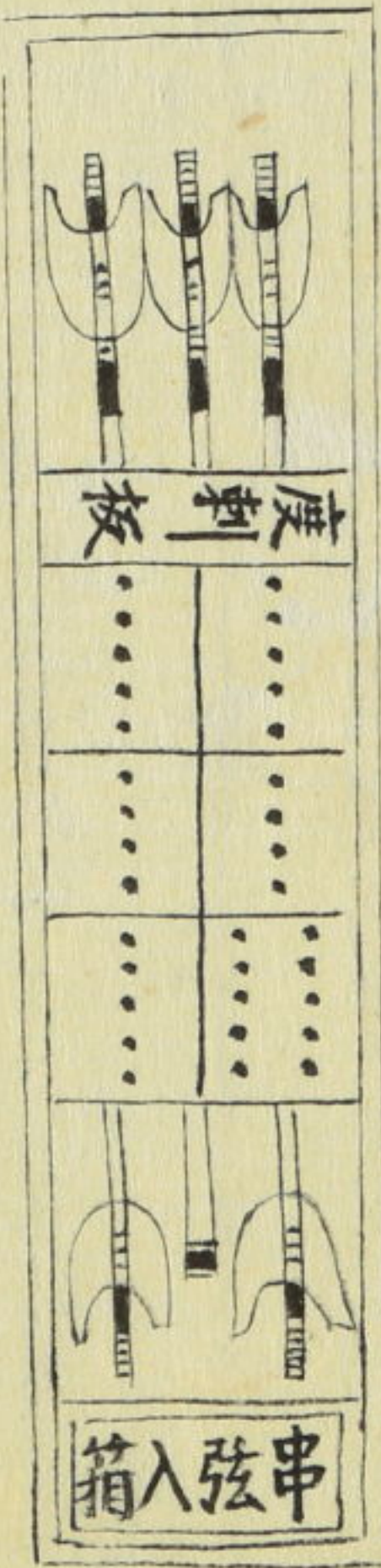
寺町五条橋詰町

清兵衛店

庄太郎店

梅村彌右衛門版行

○揚弓管之圖



長一尺三分

幅一寸八分

深一寸三分

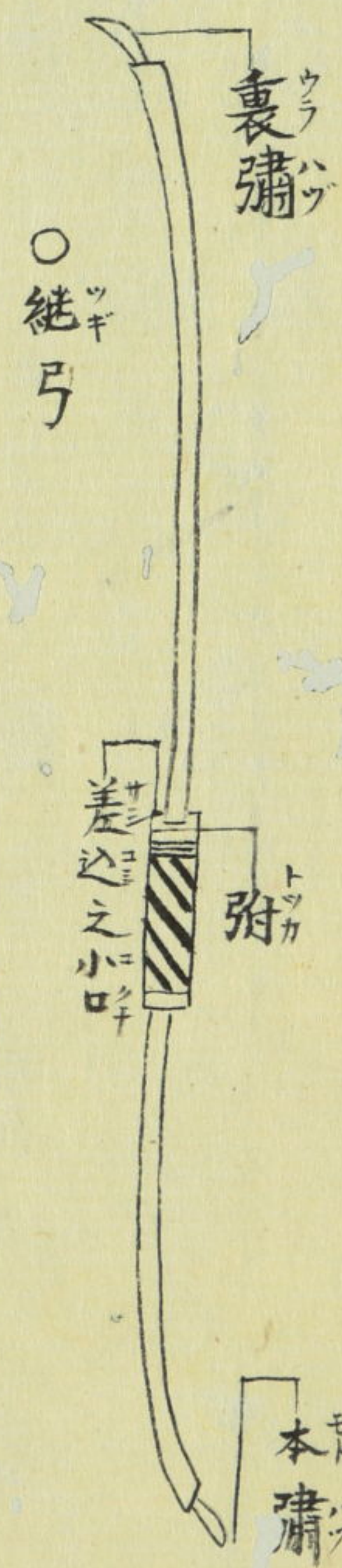
已上内率

野郎蓋
几帳面

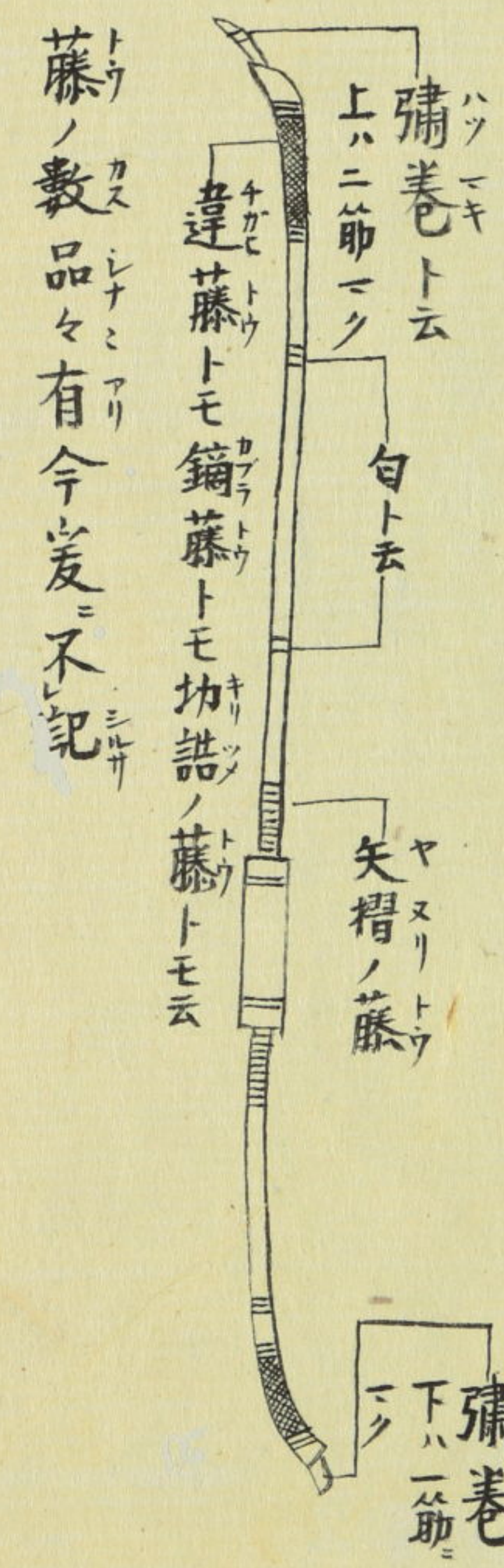
附矢下入繼弓橐入度刺板之上入

右寸法非定式法五本入或十本
筭盤之大小闡筒各可隨所好

○弓之圖

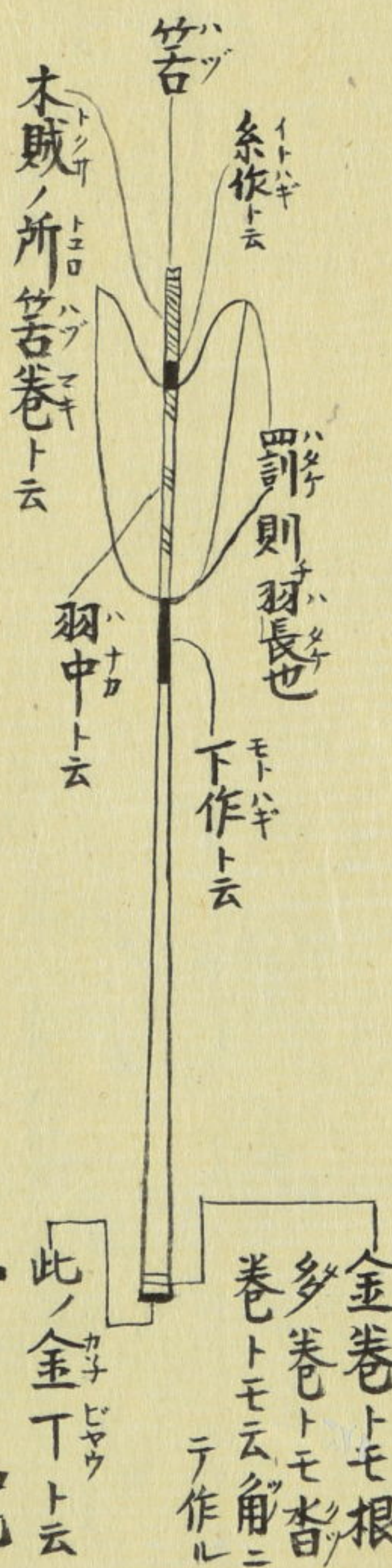


○藤之圖



是本式ノ藤也

○矢之圖



〔箬〕

廣韻云箭弦受所古活反和名
夜波須拔又同又括說文絃築處ト云

鐵ニテ作り
矢尻ヘサシユ
ムユヘ云

〔羽〕

諸鳥ノ羽ヲ用ユトイヘドモ白鳥ノ君不知
上品也上羽ハ人々ノ好處ニ可隨

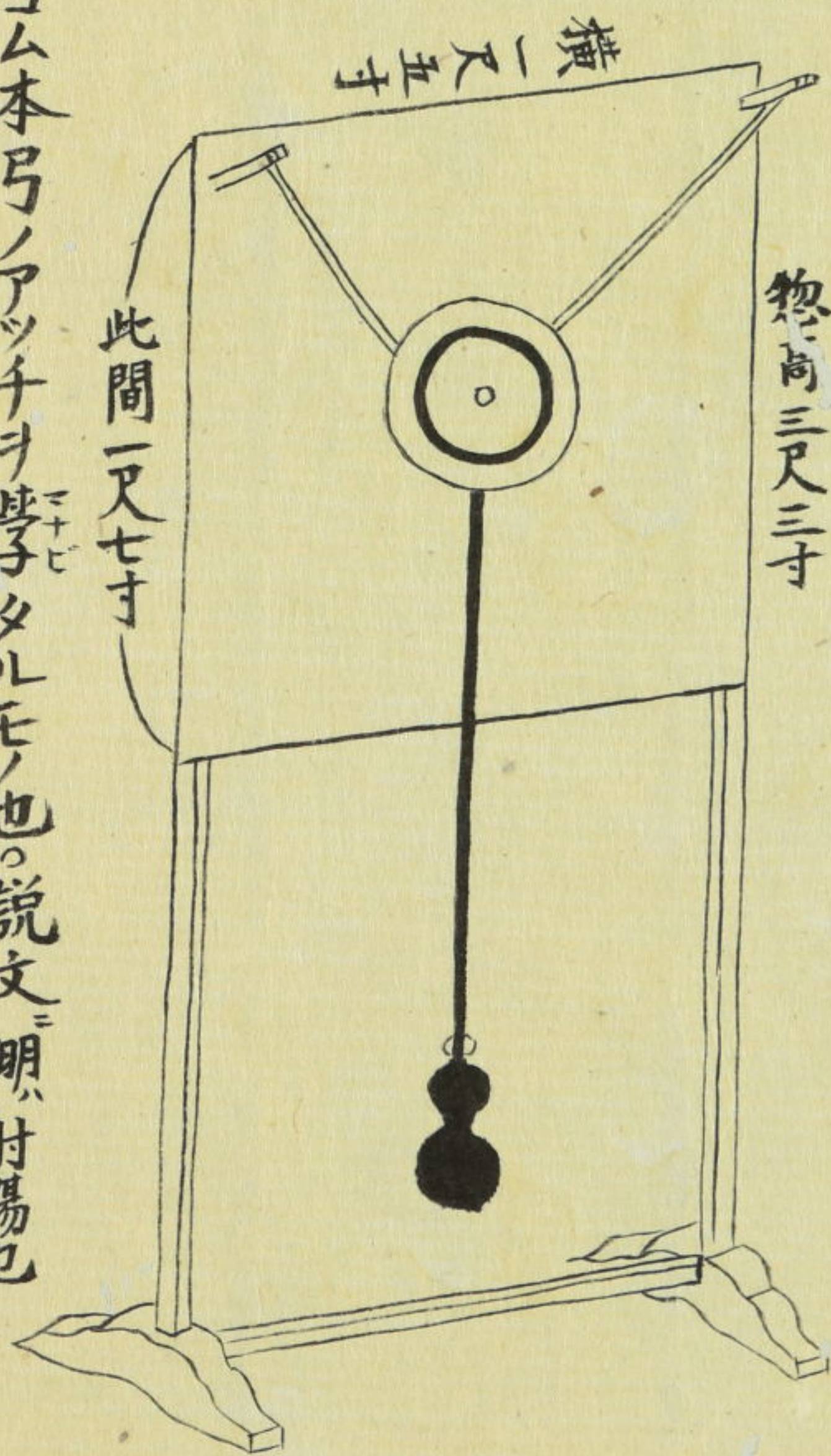
金卷トモ根
多卷トモ香
卷トモ云角ニ
テ作ル

此ノ金ト云
如此

○矢筒之圖

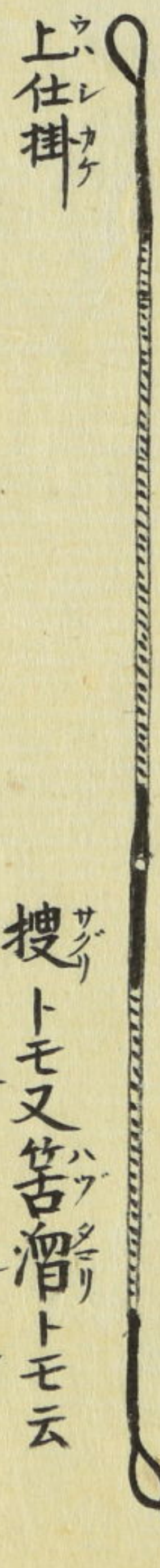


○棚之圖



棚 アゲキトヨム本弓ノアツキヲ學マナブタルモノ也。説文ニ棚ハ射場也射場也云云

○弦之圖



銀ニテ作ルニツモ入ル 下仕掛

搜サグトモ又ハツ苦溜クヅリトモ云
朝アサハ露ツユト云書ヒル冥ミ王ミヤト云
夜ヨハ探サグト唱ナドト云説セツア
レトモ必ずトスルニ非ズ

○臺景之圖

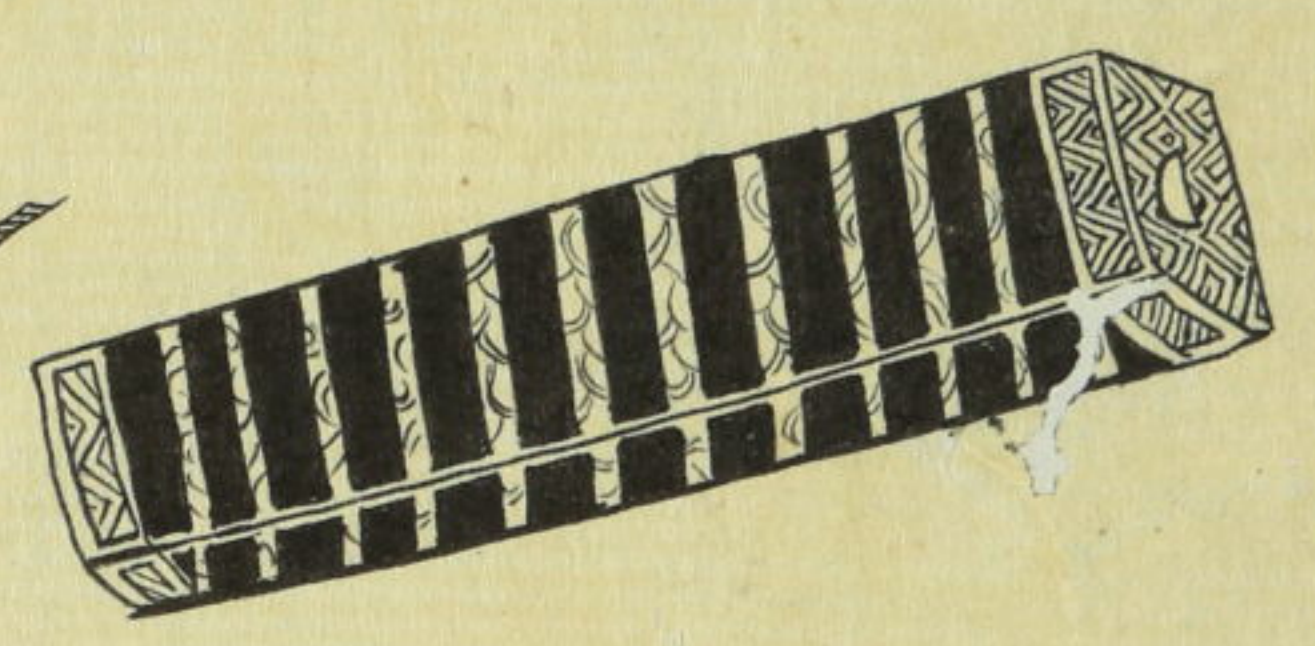


文化十三丙子五月日、字之

儀角亞

附之圖

如此釣也



的ヲ釣ニ習アリ的高弦無ノ弓ヲ墨ニ立テ鋒先ノ届クホドニ釣ヲ本式トス

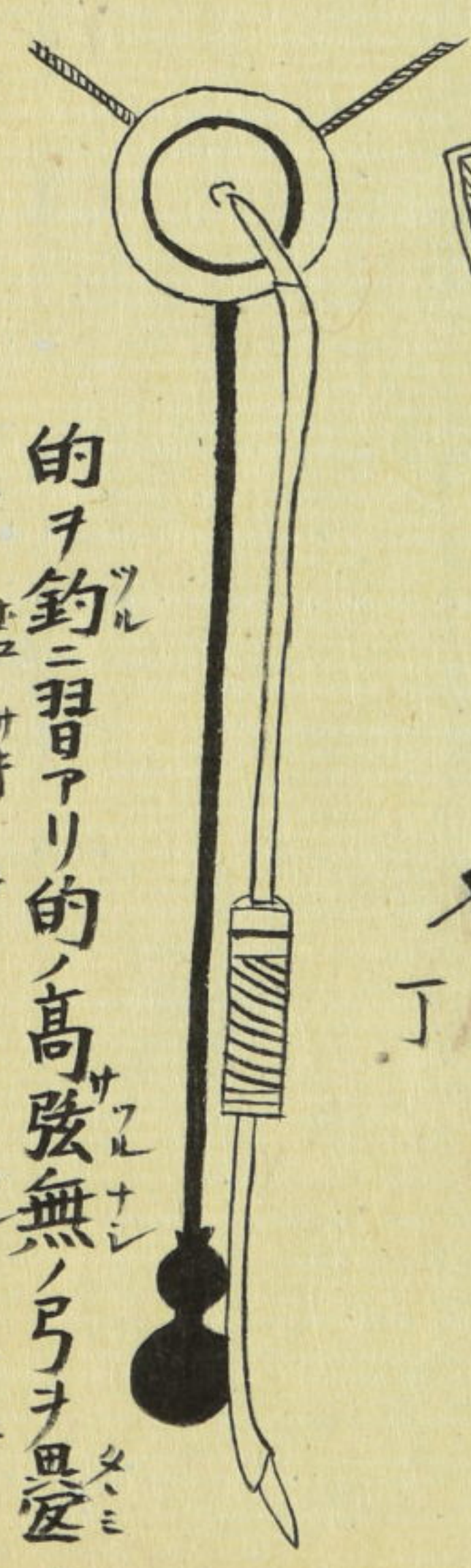
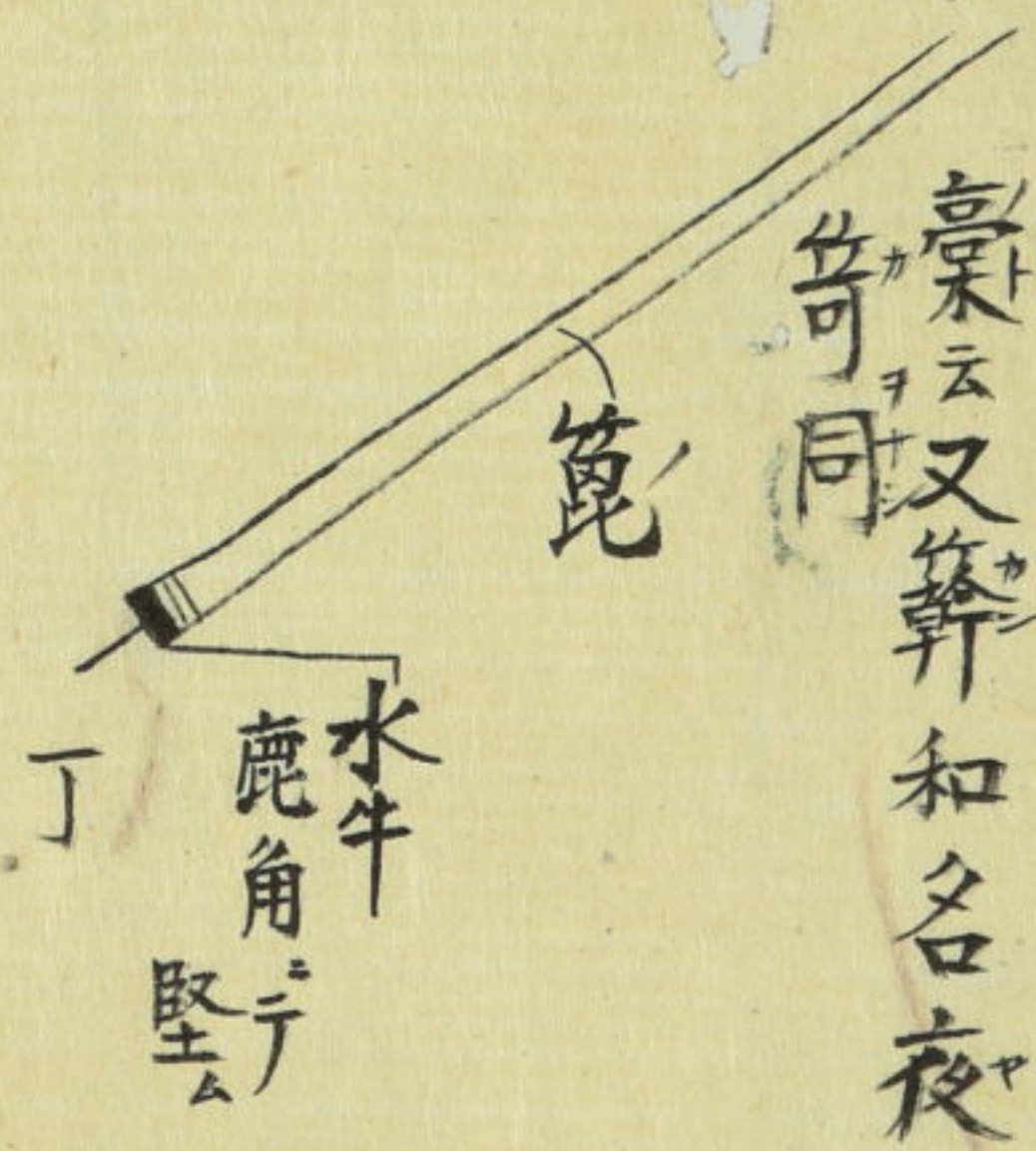


圖 篋即豪也。長融。長
笛賦持箭豪莖立云箭幹
豪云又箭和名夜加良又
奇同



水牛
鹿角
丁 堅

